

皇學館大学研究開発推進センター紀要 第一号
平成二十七年三月二十五日発行（抜刷）

皇學館大学 佐川記念神道博物館小史

岡 田 芳 幸

皇學館大学 佐川記念神道博物館小史

岡 田 芳 幸

1 神道博物館の建設と組織構成

(1) 開館に至る迄の沿革

建物竣工迄

皇學館大学内に博物館施設建設の気運が生じたのは昭和六十一年で、当初の目的は昭和五十二年以降鋭意収集が進められてきた神道祭祀関係資料や全国の有名な神社の特殊神饌の模型などの保存・公開施設の必要性が要望され、併せて昭和六十一年七月五日所蔵者山田幸輝氏と理事長篠田康雄との間で取り交わされた「千束屋資料の寄託並びに寄贈に関する覚書」に基づき同資料が本学に寄託され、資料保管のため、大学附置の博物館施設建設の構想が生まれたことによる。時あたかも、伊勢文化会議所常任理事浜田益嗣氏を通じて、佐川急便グループ会長佐川清氏に協力を依頼した。その後七月十八日、篠田康男理事長の意をうけ、田中卓学長が伊勢市長水谷光男・伊勢文化会議所常任理事浜田益嗣両氏とともに京都在住の佐川清氏を訪ね、資料館建設の援助についての快諾を得た。八月十二日には、神宮司庁に建設用地の借用を依頼し、昭和六十二年五月七日から六十年間にわたる長期利用が可能となった。敷地と建物建設についての要件が整い、昭和六十二年七月十三日には地鎮祭、翌年七月二十五日には竣工祭が斎行された。

工事・設備並びに平面図は、次の通り。

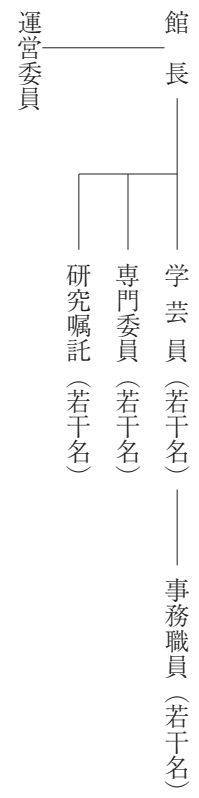
工 期	着工	竣工	鉄筋コンクリート造	二階建
	昭和六十二年七月十五日	昭和六十三年七月十五日	一ヶ年	
構造・規模	一〇・〇〇メートル			
敷地面積	三〇四二・四八平方メートル			
床面積	一階 九七〇・〇五平方メートル 二階 八四八・七二平方メートル			
延面積	一八一八・七七平方メートル			
建築面積	一〇三一・五〇平方メートル			
外部仕上	屋上	シート防水・保護塗料仕上		
	庇	人工緑青銅板 厚〇・三ミリ	一文字葺屋根	
	外壁	二丁掛タイル深目地張り		
	建具	電解着色アルミサッシ		
	玄関床	外国産御影石張り		
内部仕上	ホール	床	タイルカーペット	
	壁	ペンキ下地用クロス貼り・塗装仕上		
	天井	ボード下地・塗装仕上		

たれ、主として展示に関する基本理念、今後の事業等についての意見確認、施設改善の方法等が審議された。施設改善の方法が審議されるに至った経緯は、平成元年二月二日から三日と九月四日、東京国立文化財研究所（現在 独立行政法人国立文化財機構）石川陸郎氏（故人）による、アルカリガス測定及び施設に関する調査がおこなわれ、その調査報告書に施設改善についての意見が附されていたことによる。主として収蔵庫及び展示室の改善に関するものであった。

（２）組織図並人員名簿（平成元年～二十四年）

平成元年四月一日より神道博物館として始動することとなった。組織並びに人員は下記の通りである。

◇組織図



◇人員

平成元年 館員名簿

- 館長 谷省吾（学長）
- 学芸員 岡田 芳幸
- 専門委員 稲垣 晋也（教授）・伴 五十嗣郎（教授）・安江 和宣（助教授）・櫻井 治男（助教授）・深津 睦夫（講師）・岡田 登（講師）
- 事務員 安井 麻弓
- 運営委員名簿
- 谷口 鈴正（大学常任理事）・谷 省吾（学長・博物館長）・西宮 一民（文学

部長）・宗林 正人（附属図書館長）・粕谷 興紀（神道研究所長）・藤本 利治（史料編纂所長）・岡田 功（大学事務局長心得）

平成二年 館員名簿

- 館長 谷省吾（学長）
- 学芸員 岡田 芳幸
- 専門委員 稲垣 晋也（教授）・伴 五十嗣郎（教授）・安江 和宣（助教授）・櫻井 治男（助教授）・深津 睦夫（講師）・岡田 登（講師）
- 事務員 安井 麻弓
- 運営委員 谷口 鈴正（大学常任理事）・谷 省吾（学長・博物館長）・西宮 一民（文学部長）・宗林 正人（附属図書館長）・粕谷 興紀（神道研究所長）・藤本 利治（史料編纂所長）・岡田 功（大学事務局長心得）
- 平成三年 館員名簿
- 館長 谷省吾（学長）
- 学芸員 岡田 芳幸
- 専門委員 稲垣 晋也（教授）～三月三十一日・伴 五十嗣郎（教授）・安江 和宣（助教授）～三月三十一日、教授 四月一日～・櫻井 治男（助教授）・島原 泰雄（助教授 四月一日～）・白山 芳太郎（助教授 四月一日～）・深津 睦夫（講師）～三月三十一日、助教授 四月一日～・岡田 登（講師）～三月三十一日、助教授 四月一日～・本澤 雅史（助手 四月一日～）
- 研究嘱託 岡本 勝（愛知教育大学教授 四月一日～）・岡田 照子（岐阜女子大学教授 四月一日～）・安田 文吉（南山大学教授 四月一日～）・富田 康之（名古屋女子大学講師 四月一日～）
- 事務員 右田 麻弓（旧姓 安井）

運営委員

谷口 鈴正 (大学常任理事)・谷 省吾 (学長・博物館長)・西宮 一民 (文学部長)・宗林 正人 (附属図書館長) (三月三十一日)・白米 満行 (附属図書館長) 四月一日)・粕谷 興紀 (神道研究所長) (三月三十一日)・岡田 重精 (神道研究所長) 四月一日)・藤本 利治 (史料編纂所長) (三月三十一日)・稲垣 晋也 (史料編纂所長) 四月一日)・岡田 功 (大学事務局長)

平成四年 館員名簿

館 長

谷 省吾 (学長)

学芸員

岡田 芳幸

専門委員

伴 五十嗣郎 (教授)・安江 和宣 (教授)・櫻井 治男 (助教授)・島原 泰雄 (助教授)・白山 芳太郎 (助教授)・深津 睦夫 (助教授)・岡田 登 (助教授)・本澤 雅史 (助手) (三月三十一日、講師 四月一日)

研究嘱託

岡本 勝 (愛知教育大学教授)・岡田 照子 (岐阜女子大学教授)・安田 文吉 (南山大学教授)・富田 康之 (名古屋女子大学講師) (三月三十一日、助教授 四月一日)

事務員

右田 麻弓

運営委員

谷口 鈴正 (大学常任理事) (三月三十一日)・後藤 裕文 (大学常任理事) 四月一日)・谷 省吾 (学長・博物館長)・西宮 一民 (文学部長)・白米 満行 (附属図書館長)・岡田 重精 (神道研究所長)・稲垣 晋也 (史料編纂所長)・岡田 功 (大学事務局長)

平成五年 館員名簿

館 長

谷 省吾 (学長)

学芸員

岡田 芳幸

専門委員

伴 五十嗣郎 (教授) (三月三十一日)・安江 和宣 (教授)・櫻井

研究嘱託

治男 (助教授) (三月三十一日、教授 四月一日)・島原 泰雄 (助教授) (三月三十一日、教授 四月一日)・白山 芳太郎 (助教授)・深津 睦夫 (助教授)・岡田 登 (助教授)・本澤 雅史 (講師)・岡本 勝 (愛知教育大学教授)・岡田 照子 (岐阜女子大学教授)・安田 文吉 (南山大学教授)・富田 康之 (名古屋女子大学助教授)・右田 麻弓

事務員

右田 麻弓

運営委員

平成六年 館員名簿

館 長

谷 省吾 (学長) (三月三十一日)・宗林 正人 (教授) 四月一日)

学芸員

岡田 芳幸

専門委員

安江 和宣 (教授)・櫻井 治男 (教授) (三月三十一日)・島原 泰雄 (教授) (三月三十一日)・白山 芳太郎 (助教授) (三月三十一日)・深津 睦夫 (助教授)・岡田 登 (助教授)・本澤 雅史 (講師)

研究嘱託

岡本 勝 (愛知教育大学教授)・岡田 照子 (岐阜女子大学教授)・安田 文吉 (南山大学教授)・富田 康之 (名古屋女子大学助教授)・菅居 正史 (宮内庁三の丸尚蔵館) 四月一日)

事務員

右田 麻弓 (五月三十一日)・清水 寛子 (三月一日)

運営委員

後藤 裕文 (大学常任理事)・谷 省吾 (学長・博物館長) (三月三十一日)・西宮 一民 (文学部長) (三月三十一日、学長 四月一日)・野村 茂夫 (文学部長) 四月一日)・白米 満行 (附属

図書館長）・伴 五十嗣郎（神道研究所長　〱三月三十一日）・奥
野 純一（神道研究所長　四月一日）・渡辺 寛（史料編纂所長）・
岡田 功（大学事務局長）

平成七年 館員名簿

館 長 宗林 正人（教授）

学芸員 岡田 芳幸

専門委員 安江 和宣（教授）・深津 睦夫（助教授）・岡田 登（助教授）・本

澤 雅史（講師）

研究嘱託 岡本 勝（愛知教育大学教授）・岡田 照子（岐阜女子大学教授）・

安田 文吉（南山大学教授）・安田 徳子（聖徳学園岐阜教育大学

教授　四月一日）・富田 康之（名古屋女子大学助教授　〱三月

三十一日、北海道大学助教授　四月一日）・菅居 正史（宮内庁

三の丸尚蔵館）

事務員 清水 寛子

運営委員 後藤 裕文（大学常任理事　〱九月三十日）・岡田 重精（大学常

任理事　十月二十三日）・西宮 一民（学長）・野村 茂夫（文学

部長）・白米 満行（附属図書館長　〱三月三十一日）・長谷川 明

紀（附属図書館長　四月一日）・奥野 純一（神道研究所長　〱

三月三十一日）・櫻井 治男（神道研究所長　四月一日）・渡辺

寛（史料編纂所長）・岡田 功（大学事務局長）

平成八年 館員名簿

館 長 宗林 正人（教授）

学芸員 岡田 芳幸

専門委員 安江 和宣（教授）・深津 睦夫（助教授）・岡田 登（助教授）・本

澤 雅史（講師）

研究嘱託

岡本 勝（愛知教育大学教授）・岡田 照子（岐阜女子大学教授）・
安田 文吉（南山大学教授）・安田 徳子（聖徳学園岐阜教育大学

教授）・富田 康之（北海道大学助教授）・菅居 正史（宮内庁三の

丸尚蔵館）

事務員

運営委員

清水 寛子
岡田 重精（大学常任理事）・西宮 一民（学長）・野村 茂夫（文
学部長）・長谷川 明紀（附属図書館長）・櫻井 治男（神道研究所

長）・渡辺 寛（史料編纂所長　〱三月三十一日）・恵良 宏（史料

編纂所長　四月一日）・岡田 功（大学事務局長　〱三月三十一

日）・廣瀬 義弘（大学事務局長　四月一日）

平成九年 館員名簿

館 長 宗林 正人（教授　〱三月三十一日）・伴 五十嗣郎（教授　四月

一日）

学芸員

専門委員

岡田 芳幸
安江 和宣（教授）・深津 睦夫（助教授）・岡田 登（助教授）・
本澤 雅史（講師　〱三月三十一日、助教授　四月一日）

研究嘱託

岡本 勝（愛知教育大学教授）・岡田 照子（岐阜女子大学教授）・
安田 文吉（南山大学教授）・安田 徳子（聖徳学園岐阜教育大学

教授）・富田 康之（北海道大学助教授）・菅居 正史（宮内庁三の

丸尚蔵館）

事務員

運営委員

清水 寛子
岡田 重精（大学常任理事）・西宮 一民（学長）・野村 茂夫（文
学部長）・長谷川 明紀（附属図書館長　〱三月三十一日）・宗林

正人（附属図書館長　四月一日）・櫻井 治男（神道研究所

長　〱三月三十一日）・清水 潔（神道研究所長　四月一日）

恵良 宏 (史料編纂所長)・廣瀬 義弘 (大学事務局長)

平成十年 館員名簿

館 長 伴 五十嗣郎 (教授)

学芸員 岡田 芳幸

専門委員 安江 和宣 (教授)・深津 睦夫 (助教授) 〓三月三十一日、教授

四月一日〓・岡田 登 (助教授) 〓三月三十一日、教授 四月一日〓・本澤 雅史 (助教授)

研究嘱託 岡本 勝 (愛知教育大学教授)・岡田 照子 (岐阜女子大学教授) 〓三月三十一日、名誉教授 四月一日〓・安田 文吉 (南山大学教授)・

安田 徳子 (聖徳学園岐阜教育大学教授)・富田 康之 (北海道大学助教授)・菅居 正史 (宮内庁三の丸尚蔵館)

事務員 清水 寛子

運営委員 岡田 重精 (大学常任理事) 〓八月二十六日・井上 公正 (大学

常任理事 九月十六日〓・西宮 一民 (学長)・野村 茂夫 (文学部長)・高島 昌二 (社会福祉学部長 四月一日〓・宗林 正人 (附属図書館長)・清水 潔 (神道研究所長)・恵良 宏 (史料編纂所長)・廣瀬 義弘 (大学事務局長)

平成十一年 館員名簿

館 長 伴 五十嗣郎 (教授)

学芸員 岡田 芳幸

専門委員 安江 和宣 (教授)・深津 睦夫 (教授)・岡田 登 (教授)・本澤 雅

史 (助教授)

研究嘱託 岡本 勝 (愛知教育大学教授)・岡田 照子 (岐阜女子大学名誉教授)・安田 文吉 (南山大学教授)・安田 徳子 (聖徳学園岐阜教育大学教授)・富田 康之 (北海道大学助教授)・菅居 正史 (宮内庁

三の丸尚蔵館)

事務員 清水 寛子

運営委員 井上 公正 (大学常任理事)・西宮 一民 (学長)・野村 茂夫 (文学部長 〓三月三十一日、附属図書館長 四月一日〓)・林 武美

(文学部長 四月一日〓)・高島 昌二 (社会福祉学部長)・宗林 正人 (附属図書館長 〓三月三十一日)・清水 潔 (神道研究所長)・恵良 宏 (史料編纂所長 〓三月三十一日)・島原 泰雄 (史料編纂所長 四月一日〓)・廣瀬 義弘 (大学事務局長)

平成十二年 館員名簿

館 長 伴 五十嗣郎 (教授)

学芸員 岡田 芳幸

専門委員 安江 和宣 (教授)・深津 睦夫 (教授)・岡田 登 (教授)・本澤

雅史 (助教授)

研究嘱託 岡本 勝 (愛知教育大学教授)・岡田 照子 (岐阜女子大学名誉教授)・安田 文吉 (南山大学教授)・安田 徳子 (聖徳学園岐阜教育大学教授)・富田 康之 (北海道大学助教授)・菅居 正史 (宮内庁三の丸尚蔵館)

事務員 清水 寛子

運営委員 井上 公正 (大学常任理事) 〓七月二十八日・宗林 正人 (大学

常任理事 八月二十七日〓・西宮 一民 (学長 〓三月三十一日)・大庭 脩 (学長 四月一日〓)・林 武美 (文学部長)・高島 昌二 (社会福祉学部長)・野村 茂夫 (附属図書館長)・清水 潔 (神道研究所長)・島原 泰雄 (史料編纂所長)・廣瀬 義弘 (大学事務局長)

平成十三年 館員名簿

館 長 伴 五十嗣郎（教授） 三月三十一日・深津 睦夫（教授） 四月

一日）

学芸員 岡田 芳幸

専門委員 安江 和宣（教授）・深津 睦夫（教授） 三月三十一日・岡田

登（教授）・本澤 雅史（助教授）

研究嘱託 岡本 勝（愛知教育大学教授）・岡田 照子（岐阜女子大学名誉教

授）・安田 文吉（南山大学教授）・安田 徳子（聖徳学園岐阜教育

大学教授）・富田 康之（北海道大学助教授）・菅居 正史（宮内庁

三の丸尚蔵館） 三月三十一日）

事務員 清水 寛子

運営委員 宗林 正人（大学常任理事）・大庭 脩（学長）・林 武美（文学部

長） 三月三十一日）・伴 五十嗣郎（文学部長） 四月一日）・

高島 昌二（社会福祉学部部長）・野村 茂夫（附属図書館長）・清水

潔（神道研究所長） 三月三十一日）・井後 政晏（神道研究所長

四月一日）・島原 泰雄（史料編纂所長）・廣瀬 義弘（大学事務

局長） 八月十日）森 靖弘（大学事務局長） 八月十一日）

平成十四年 館員名簿

館 長 深津 睦夫（教授）

学芸員 岡田 芳幸

専門委員 安江 和宣（教授）・岡田 登（教授）・本澤 雅史（助教授）

研究嘱託 岡本 勝（愛知教育大学教授）・岡田 照子（岐阜女子大学名誉教

授）・安田 文吉（南山大学教授）・安田 徳子（聖徳学園岐阜教育

大学教授）・富田 康之（北海道大学助教授）

事務員 清水 寛子

運営委員

宗林 正人（大学常任理事）・大庭 脩（学長）・伴 五十嗣郎（文
学部長）・高島 昌二（社会福祉学部部長）・野村 茂夫（附属図書館
長）・井後 政晏（神道研究所長）・島原 泰雄（史料編纂所長）・

森 靖弘（大学事務局長） 三月三十一日）・大竹 辰也（大学事

務局長） 四月一日）

平成十五年 館員名簿

館 長 深津 睦夫（教授）

学芸員 岡田 芳幸（助教授） 四月一日）

専門委員 安江 和宣（教授） 三月三十一日）・岡田 登（教授）・岡野 友

彦（助教授） 四月一日）・本澤 雅史（助教授）

研究嘱託 岡本 勝（愛知教育大学教授） 三月三十一日、中部大学教授

四月一日）・岡田 照子（岐阜女子大学名誉教授）・安田 文吉（南

山大学教授）・安田 徳子（聖徳学園岐阜教育大学教授） 三月

三十一日、岐阜聖徳学園大学教授） 四月一日）・富田 康之（北

海道大学助教授）

事務員 清水 寛子

運営委員 宗林 正人（大学常任理事）・大庭 脩（学長） 十一月二十七日（死

去）・伴 五十嗣郎（学長代理） 十一月二十七日）三月三十一日、

学長） 四月一日）、文学部長） 三月三十一日）・奥野 純一（文

学部部長） 四月一日）・高島 昌二（社会福祉学部部長）・野村 茂夫

（附属図書館長） 三月三十一日）・日高 敦夫（附属図書館長

四月一日）・井後 政晏（神道研究所長）・島原 泰雄（史料編纂

所長） 三月三十一日）・清水 潔（史料編纂所長） 四月一日）・

大竹 辰也（大学事務局長）

平成十六年 館員名簿

館 長 深津 睦夫 (教授)

学 芸 員 岡田 芳幸 (助教授)

専門委員 岡田 登 (教授)・岡野 友彦 (助教授)・本澤 雅史 (助教授)

研究嘱託 岡本 勝 (中部大学教授)・岡田 照子 (岐阜女子大学名誉教授)・

安田 文吉 (南山大学教授)・安田 徳子 (岐阜聖徳学園大学教授)・

富田 康之 (北海道大学助教授)

事 務 員 清水 寛子

運営委員 宗林 正人 (大学常任理事)・伴 五十嗣郎 (学長)・奥野 純一 (文

学部長)・高島 昌一 (社会福祉学部長)・日高 敦夫 (附属図書館

長)・井後 政晏 (神道研究所長)・清水 潔 (史料編纂所長)・大

竹 辰也 (大学事務局長)

平成十七年 館員名簿

館 長 深津 睦夫 (教授) (三月三十一日)、島原 泰雄 (教授) 四月一

日)

学 芸 員 岡田 芳幸 (助教授)

専門委員 岡田 登 (教授)・岡野 友彦 (助教授) (三月三十一日、教授

四月一日)・本澤 雅史 (助教授)

研究嘱託 岡本 勝 (中部大学教授)・岡田 照子 (岐阜女子大学名誉教授)・

安田 文吉 (南山大学教授)・安田 徳子 (岐阜聖徳学園大学教授)・

富田 康之 (北海道大学助教授)

事 務 員 清水 寛子

運営委員 宗林 正人 (大学常任理事)・伴 五十嗣郎 (学長)・奥野 純一 (文

学部長)・高島 昌一 (社会福祉学部長) (三月三十一日、附属図

書館長 四月一日)・櫻井 治男 (社会福祉学部長 四月一

平成十八年 館員名簿

館 長 島原 泰雄 (教授)

学 芸 員 岡田 芳幸 (助教授)

専門委員 岡田 登 (教授)・岡野 友彦 (教授)・深津 睦夫 (教授) 四月一

日)・本澤 雅史 (助教授)

研究嘱託 岡本 勝 (中部大学教授)・岡田 照子 (岐阜女子大学名誉教授)・

安田 文吉 (南山大学教授)・安田 徳子 (岐阜聖徳学園大学教授)・

富田 康之 (北海道大学助教授)

事 務 員 清水 寛子

受 付 平野 真希 (四月一日)

運営委員 宗林 正人 (大学常任理事) (三月三十一日、大学常務理事 四

月一日)・伴 五十嗣郎 (学長)・奥野 純一 (文学部長)・櫻井

治男 (社会福祉学部長)・高島 昌一 (附属図書館長)・安江 和

宣 (神道研究所長)・上野 秀治 (史料編纂所長)・大竹 辰也 (大

学事務局長)

平成十九年 館員名簿

館 長 島原 泰雄 (教授)

学 芸 員 岡田 芳幸 (助教授) (三月三十一日、准教授 四月一日)

館 員 石川 達也 (助手 四月一日)

専門委員 岡田 登 (教授)・岡野 友彦 (教授)・掛本 勲夫 (教授) 四月一

日)・加茂 正典 (教授 四月一日)・川添 裕 (教授 四月一

日)・豊住 誠(教授 四月一日)・深津 睦夫(教授)・本澤 雅史(助教 三月三十一日、教授 四月一日)

研究嘱託

岡本 勝(中部大学教授 三月三十一日)・岡田 照子(岐阜女子大学名誉教授)・安田 文吉(南山大学教授)・安田 徳子(岐阜聖徳学園大学教授)・富田 康之(北海道大学助教 三月三十一日)

事務員

清水 寛子

受 付

平野 真希(三月三十一日)

運営委員

宗林 正人(大学常務理事 三月三十一日、大学常任理事 四月一日)・伴 五十嗣郎(学長)・奥野 純一(文学部長 三月三十一日)・清水 潔(文学部長 四月一日)・櫻井 治男(社会福祉学部長)・高島 昌二(附属図書館長 三月三十一日)・安江 和宣(神道研究所長)・上野 秀治(史料編纂所長)・大竹 辰也(大学事務局長)

平成二十年 館員名簿

館 長

島原 泰雄(教授)

学芸員

岡田 芳幸(准教授)

館 員

石川 達也(助手)

専門委員

岡田 登(教授)・岡野 友彦(教授)・掛本 勲夫(教授 三月三十一日)・加茂 正典(教授)・川添 裕(教授)・豊住 誠(教授)・深津 睦夫(教授 五月三十一日)・本澤 雅史(教授)

研究嘱託

岡田 照子(岐阜女子大学名誉教授)・安田 文吉(南山大学教授)・安田 徳子(岐阜聖徳学園大学教授)

事務員

清水 寛子

運営委員

宗林 正人(大学常任理事)・伴 五十嗣郎(学長)・清水 潔(文

学部長)・櫻井 治男(社会福祉学部長)・掛本 勲夫(教育学部長 四月一日)・安江 和宣(神道研究所長)・上野 秀治(史料編纂所長)・大竹 辰也(大学事務局長)

平成二十一年 館員名簿

館 長

島原 泰雄(教授 三月三十一日)・岡野 友彦(教授 四月一日)

学芸員

岡田 芳幸(准教授)

館 員

石川 達也(助手)

専門委員

岡田 登(教授 三月三十一日)・岡野 友彦(教授 三月三十一日)・加茂 正典(教授)・川添 裕(教授)・豊住 誠(教授)・深津 睦夫(教授 三月三十一日)・本澤 雅史(教授)

研究嘱託

岡田 照子(岐阜女子大学名誉教授)・安田 文吉(南山大学教授)・安田 徳子(岐阜聖徳学園大学教授)

事務員

清水 寛子

運営委員

宗林 正人(大学常任理事 三月三十一日、大学常務理事 四月一日)・伴 五十嗣郎(学長)・清水 潔(文学部長)・櫻井 治男(社会福祉学部長)・深草 正博(教育学部長 四月一日)・安江 和宣(神道研究所長 三月三十一日)・白山 芳太郎(神道研究所長 四月一日)・上野 秀治(史料編纂所長 三月三十一日、国史学科主任 四月一日)・岡田 登(史料編纂所長 四月一日)・河野 訓(神道学科主任 四月一日)・大島 信生(国文学科主任 四月一日)・中村 哲夫(教育学科主任 四月一日)・増井 節郎(コミュニケーション学科主任 四月一日)・大竹 辰也(大学事務局長)

平成二十二年 館員名簿

館 長 岡野 友彦 (教授)

学芸員 岡田 芳幸 (准教授) 三月三十一日、教授 四月一日)

館 員 石川 達也 (助手) 三月三十一日・太田 光俊 (助手 四月一日)

日)

専門委員 加茂 正典 (教授)・川添 裕 (教授) 三月三十一日・豊住 誠 (教

授)・本澤 雅史 (教授)

研究嘱託 岡田 照子 (岐阜女子大学名誉教授) 三月三十一日・安田 文

吉 (南山大学教授) 三月三十一日・安田 徳子 (岐阜聖徳学園

大学教授) 三月三十一日)

事務員 清水 寛子

運営委員 宗林 正人 (大学常務理事) 八月二十六日・井面 護 (大学常

務理事 八月二十七日)・伴 五十嗣郎 (学長)・清水 潔 (文

学部長)・櫻井 治男 (社会福祉学部長)・深草 正博 (教育学部長)・

白山 芳太郎 (神道研究所長)・岡田 登 (史料編纂所長)・河野

訓 (神道学科主任)・大島 信生 (国文学科主任)・上野 秀治 (国

史学科主任)・中村 哲夫 (教育学科主任)・増井 節郎 (コミュニ

ケーション学科主任)・大竹 辰也 (大学事務局長) 三月三十一

日)・西谷 豊 (大学事務局長 四月一日)

平成二十三年 館員名簿

館 長 岡野 友彦 (教授)

学芸員 岡田 芳幸 (教授)・千枝 大志 (助教 四月一日)

館 員 太田 光俊 (助手) 三月三十一日)

専門委員 加茂 正典 (教授)・豊住 誠 (教授) 三月三十一日・本澤 雅

史 (教授)

事務員 清水 寛子

運営委員 井面 護 (大学常務理事)・伴 五十嗣郎 (学長) 三月三十一日・

清水 潔 (学長 四月一日)・清水 潔 (文学部長) 三月

三十一日・半田 美永 (文学部長 四月一日)・櫻井 治男 (社

会福祉学部長)・深草 正博 (教育学部長)・宮川 泰夫 (現代日本

社会学部長 四月一日)・白山 芳太郎 (神道研究所長)・岡田

登 (史料編纂所長)・河野 訓 (神道学科主任)・大島 信生 (国文

学科主任)・上野 秀治 (国史学科主任)・増井 節郎 (コミュニケー

ション学科主任) 三月三十一日・豊住 誠 (コミュニケーション

ション学科主任 四月一日)・中村 哲夫 (教育学科主任)・新田 均

(現代日本社会学科主任 四月一日)・西谷 豊 (大学事務局長)

平成二十四年 館員名簿

館 長 岡野 友彦 (教授)

学芸員 岡田 芳幸 (教授)・千枝 大志 (助教)

専門委員 加茂 正典 (教授)・本澤 雅史 (教授)

事務員 長谷川 寛子

運営委員 井面 護 (大学常務理事)・清水 潔 (学長 四月一日)・半田

美永 (文学部長 四月一日)・櫻井 治男 (社会福祉学部長)・

深草 正博 (教育学部長)・宮川 泰夫 (現代日本社会学部長)・白

山 芳太郎 (神道研究所長)・岡田 登 (史料編纂所長)・河野 訓 (神

道学科主任)・大島 信生 (国文学科主任)・上野 秀治 (国史学科

主任)・豊住 誠 (コミュニケーション学科主任)・中村 哲夫 (教

育学科主任)・新田 均 (現代日本社会学科主任 四月一日)・

西谷 豊 (大学事務局長)

(3) 基本構想

当館では開館に際し、設立に至るこれまでの経緯を踏まえ、博物館設立の目的と事業を総括的に纏めた基本構想を公表した。

(1) 皇學館建学の精神に則り、日本文化の核として、それを生み、かつ支えてきた神道を基盤として歴史・伝統・文化を正しく理解し、その発展と継承に資することを目的とする。

(2) 日本文化の源泉たるべき神宮を中心とした伊勢地域の歴史と文化に係る郷土資料についても紹介し、神都伊勢とその周辺部の伝統文化と共に皇學館とその学問の普及につとめる。

(3) 前記目的を達成するため、神道資料、郷土資料及びわが国の歴史と文化に関する資料、皇學館関係資料を体系的に収集保管・調査研究・公開展示し、あわせて資料についての情報を提供する。

(4) 大学附属の博物館（研究機関）としての特殊性より、学生の教育や教職員の研究に役立つ活動を行う。

(5) 同時に神社神道の一般への啓蒙普及の場として広く開放された日本の歴史や伝統・文化を学ぶ生涯学習の場としての博物館を目指す。

この基本構想はその後の当館における活動の基盤として機能している。

◇改修工事の実施

平成二年には四月一日より五月三十日迄の間、施設の改修工事が実施された。この工事は先にも述べたように、東京国立文化財研究所（現在 独立行政法人国立文化財機構）石川陸郎氏（故人）より本学に提出された当館施設改善の数項目に亘る意見に基づくものであった。改修工事の概要は

1、収蔵庫

本館には収蔵庫が三室設けられており、この内の一室を大幅に改修した。

①天井及び壁面への杉板貼の実施

文化財収蔵庫としての温湿度変化を少なくするための措置として、庫内天井・壁面を杉板材で覆うことが行われた。さらに、壁面部は釘を使用せず落とし込み板壁とし、床にはブナ材が貼られた。

②湿度自動調整装置の設置

湿度を一年中一定に保つため、収蔵庫の一面に送風機・加湿器・除湿器を設置し、庫内湿度を常時コントロールできるようにした。湿度のコントロール装置は学芸員室に置き、庫内の湿度センサーが湿度許容値を越えた場合除加湿器が自動的に作動し、空気循環ファンの運転により、ゆるやかに許容値に湿度を回復できることとなった。尚、湿度許容値は設定湿度±5%の範囲内におさめられている。

③木製収納棚の設置

資料を収納する棚も乾燥杉材を用いた木製棚が導入された。資料の多様性を踏まえつつ、同時に空気循環の便も考慮に入れ、簀の子状になりうる床板や引き出し収納可能な工夫、衣裳類を収納できる専用の衣裳箆筒状の棚等の配慮もなされた。

④収蔵庫扉改修

収蔵庫扉には防虫のための網戸を取り付け、扉は鉄扉の他網戸の奥にさらに板戸を設け、適正温湿度維持及び室外空気流入防止のための配慮がなされた。

2、展示室

展示室は展示資料の性格により三室に分けられており、これら三室全てに改修が施された。

①調湿材収納スポットの設置

展示ケース内外の空気を遮断できないケース構造のため、ケース前面に三室共調湿剤収納スポットを設置した。同時にケースガラス面の隙間を硬質塩化ビニールの目ふさぎを用い閉じた。

②調光装置の設置

紫外線による褪色や材質劣化を防ぐため、調光装置を第一・第二展示室に取り付けた。

3、収蔵庫・展示室共通の改善

①ハロン式消火設備の導入

ハロン式消火設備をセコム株式会社とのリース契約により導入した。しかし、ハロンガスの使用削減の方向に鑑み、代替システムについての情報収集や研究等も併せて行うことを確認した。

②収蔵庫・展示室内の光源の取り替え

収蔵庫・展示室内での光源について、博物館・美術館専用無紫外蛍光灯の使用が望ましいとの意見に基づき、全ての蛍光管をFLR40SL-ERL-NUの演色性蛍光管に取り替えた。

③展示室存階窓ガラスへの遮光フィルムの取り付け

展示室二階フロアと廊下の外部に面した窓全てに遮光フィルムを貼り、自然光のロビー展示室への進入をできる限り取り除く措置を構じた。

この他、資料収集や展示コンセプトの策定及びその具体的方法等の検討がなされ、「神道、特に神道祭祀の基本的なかたちを物で見理解してもらうことを中心として、そのための、学問的で、しかも興味深く、分かり易い、すっきりとしたものを工夫しつつある」（谷省吾館長「公開のための勉強と模索」館報第二号平成二年十二月）に述べられている方向性に基づく開館に向けての準備が行われた。

平成三年から四年は、開館に向けての準備の期間でもあり、収蔵庫に対するガ

ス燻蒸の実施、移動式展示ケースの改修や、収蔵資料の内、諸社の特殊神饌等の修理や展示原案に基づく祭場模型三種（神社境内全景 本殿内部 臨時祭場）製作のための諸準備、展示品の列品解説に関する検討等が行われた。また、過去五年間に亘り千束屋資料の保存・調査等の実質的な業務に従事した千束屋調査委員会は平成三年三月三十一日付で解散した。同時にこれまでの活動成果を纏めた『千束屋資料調査委員会報告書』を皇學館大学理事長櫻井勝之進宛に提出している。平成四年は開館に向けての諸準備が急ピッチで進められ、第二展示室奥の廊下スペースを皇學館コーナーとすることが認められ、資料展示ができるよう改装がくわえられた。

（4）開館式典の挙行

開館に伴う式典は、皇學館大学創立百十周年・再興三十周年記念事業の一環として行われ十月二十六日（月）に挙行された。記念講堂における式典の後、午前十一時より開館式が挙行された。岡田功事務局長の進行により、久邇邦昭神宮大宮司、篠田康雄総長、櫻井勝之進理事長、谷省吾館長（学長）、湊川誠生佐川急便株式会社副社長のテープカットに引き続き、久邇神宮大宮司を先頭に館内の巡覧が行われた。開館記念品としては図録『皇學館大学神道博物館』、絵葉書等が出席者に贈呈された。尚、当日式典のおり、神道博物館設立に多大の御助力があった佐川清元佐川急便グループ会長、山田幸輝氏（千束屋当主）の二名に、櫻井理事長より感謝状が贈呈された。

式典終了後十一月一日より一般公開が開始されたが、開館直後から新聞を始め、テレビ、雑誌等報道関係の取材が相次ぎ、一日から十五日までの半月間の入館者数は約五百人にも及び盛況であった。

開館までの経緯と当館の今後迎えるべき目的や役割（道筋）については、図録『皇學館大学神道博物館』巻頭に谷省吾館長が寄せられた「開館の日を迎えて」に端

的に述べられており、その全文を掲げる。

これまでに類のない『神道博物館』という名の博物館の内容を、どのようなものにすべきかについて、検討というより模索を重ねてきた私共ですが、神道が基本の行事としている『祭祀（まつり）』ということに、テーマを定めることにしました。八百万の神々を祭る全国各地の神社は、それぞれに歴史と個性を大切に護り伝えていますが、その中で、祭祀の基本形として共通・一貫しているものを、分かりやすく理解していただくと考えました。一挙にすべてを尽くすことはできませんので、御批正を得て、充実を期したいと思っておりますが、神道は、日本に住む人々の心と生活の中につかりと生き続けて、日本文化成長の核となってきたものであると同時に、人類の生んだ、すぐれた深い精神文化の一つであります。その神道の正確な理解のために、この博物館が着実に、そしてユニークな寄与ができたらと念じています。神道の研究は、皇學館大学の使命の中心の一つですが、学内の関係諸機関とも密接に協力して、その一翼を担ってゆくつもりです。

神道関係のほかにも、近世庶民文化史の興味深い一面を伝える伊勢歌舞伎資料など、貴重な郷土関係資料も御覧いただけます。実は、この伊勢歌舞伎資料保存のことが、本館建設の直接のきっかけになったのです。建築は、神宮の御高配と佐川清氏等の篤志を戴いて、昭和六十三年七月に竣工しましたが、爾来、全国の神社をはじめ、実に多くの方々の御支援・御指導を得て、開館の日を迎えることができました。それらの御恩に心から感謝を捧げます。

平成四年十月

開館当初における当館の特色及び事業、館内や展示の概要については、以下に纏められる。

◇特 色

特色については、我が国の歴史・文化の源泉である神道並びに神社の紹介を通じて、現在に至るまで連綿として培われ受け継がれてきた日本の文化及び歴史・伝統・信仰・思想等の様子を正しく伝えることにある。特に、伊勢は、日本人の心のふるさととも称されている神宮鎮座の地であり、神宮を中心とした周辺の歴史や文化遺産のなかには貴重なものが多い。そこで、神宮を中核とした郷土伊勢とその周辺地域についての諸資料も巾広く収集することに努める。また、大学附属の博物館である性格上、皇學館の学問並びに精神も併せて紹介し、本学の歴史の一端を知ることのできる資料も提示する空間も設けられた。

事業は、博物館の基本的な事業としての資料収集・調査研究・保存・展示・普及（教育）等の諸事業を積極的に推し進め、地域文化の向上をはかり、学会や研究者・学生に対しては、所蔵資料その他所有している各種情報の提供を行い、一般の人々に対しては生涯学習のための機能を有する施設として、関連諸事業の開催と充実をはかることを目標と定めた。

◇館内の施設

一階

館長室・学芸員室・事務室・講義室・会議室・貴賓室をはじめ、共同研究室・書庫等が設けられた。また、神道研究所も併置された。

二階

主として展示・収蔵スペースである。展示スペースは、数々の特殊神饌類等のロビー展示室、神社の祭りを中心に神道に関する展示を行う第一展示室、伊勢歌舞伎（伊勢千束屋）等の郷土資料を中心に、考古資料や歴史・美術・民俗関係資料も展観する第二展示室が設けられ、併せて皇學館と皇學館大学の歴史を紹介するコーナーも設けられた。収蔵スペースは、これら資料類を収蔵保存するための

三室の収蔵庫、資料の調査研究・写真撮影等を行う工作室も完備されている。

◇利用案内

開館時間は 平日 午前九時から午後四時（但し入館は午後三時三十分迄）

土曜 午前九時から正午 （但し入館は午前十一時三十分迄）

休館日は 日曜日、国民の祝日、神宮神嘗祭（十月十七日）、年末年始、本学

創立記念日（四月三十日）、本学休業日、当館が特に必要と認めた日（臨時休館日）

資料の特別観覧

展示品以外の資料を特別に観覧（熟覧）する希望や、資料の写真撮影及び印刷物等にご利用しようと希望する場合は、事前に定められた所定の手続きを必要とし、これら諸規定が定められた。

◇展示の概要

開館当初の常設展示について展示概要を述べておきたい。ロビー展示室と第一展示室の共通テーマは「神道と神社」である。この基本主題に基づきロビー展示室では「特殊神饌のいろいろ」として、諸社の特殊神饌類（模型）を展示した。主な展示品類は、

り神饌

奈良・春日大社 春日祭神饌（御戸開八種神饌 御棚神饌） 春日若宮おん祭

京都 賀茂別雷神社 賀茂御祖神社

賀茂祭神饌（内陣神饌 外陣神饌）

奈良 率川神社 三枝際神饌

奈良 大神神社 鎮花祭神饌

京都 石清水八幡宮 石清水祭供花神饌

その他

神社境内模型

第一展示室では「神社の祭祀（まつり）」として、祭場、鋪設、修祓、神饌、幣帛、祝詞、玉串、直会、装束、その他として、神社祭式の順序に依拠しつつ祭祀で使用される諸道具を展示した。主な展示品類は、

祭場

神社の本殿模型 臨時の祭場模型

鋪設

案 厚畳（帖） 折敷 三方 高坏 雲脚台 大角 軾（ひ

ごつき） 呉床 火鑽具 火桶 結燈台

修祓

大麻 塩湯・塩 小麻 人形 散米 解縄 忌串 祓詞

賀茂祭古式祓具

神饌

神宮御贄調理用具 身取鯨・玉貫鯨・乾鯛（模型）

幣帛

神宮月次祭幣帛（正宮 別宮） 神御衣 神宮奉織鎮謝際幣帛

祝詞

皇學館大学創立百周年記念祭典祝詞 皇學館大学創立百周年記念物故者慰

靈祭祝詞

玉串

八坂神社の玉串案 神宮の玉串案

直会

神宮山口祭饗膳「白木机 桧葉机」（模型）

装束

男子装束並びに皆具 女子装束並びに皆具

その他

宮中通常祭典祭具 御萱蓋(写) 神宮辛(唐)櫃 太宰府天満宮柳

行李並御衣

第二展示室は「伊勢の歌舞伎と千束屋 ―東西歌舞伎の交流点―」の主題で伊勢歌舞伎資料(千束屋資料)を、「故濱地文平蒐集の考古資料」の主題で本学元理事長であった濱地文平が蒐集した考古資料類を展示した。主な展示品は

伊勢の歌舞伎と千束屋

千束屋看板 歌舞伎衣裳類 歌舞伎に使用した諸道具類 歌舞伎台

帳類 「伊勢歌舞伎浄瑠璃年代記」 千束屋伝来の各種貸し出し帳簿類

引き札や暦 版木類 千束屋伝世の諸道具類 芝居絵・役者絵他

故濱地文平蒐集の考古資料

陰涼寺山横穴墓群出土の考古資料 塚山古墳群出土の考古資料 古墳

出土の遺物 須恵器広口壺 須恵器有蓋高坏 逢鹿瀬寺跡出土の軒

丸瓦 佐奈山廃寺出土の軒丸瓦 一志廃寺出土の軒丸瓦

当初の計画にはなかったが、学内に所蔵する皇學館と皇學館大学に係る資料を展示公開するスペースを別に同様な施設ができるまで仮展示することとなり、急遽、第二展示室奥の廊下スペースにコーナー展示ではあったが「皇學館と皇學館大学」の展示コーナーが開設された。主な展示品は

倉田山校舎棟札 神宮皇學館門標 皇學館大学門標 神宮皇學館全

図 林崎文庫碑拓本(影印複製) 神宮祭主北白川房子様御歌 吉田

茂書簡他

その後、平成二十二年三月六日小原利康氏蒐集の即位札・大嘗祭関係資料が本学に寄贈されたのをうけ、常設展示の一端として、それまで「皇學館と皇學館大学」のテーマで展示していたコーナーを利用し同資料を公開した。これまでの「皇學館と皇學館大学」の展示は、新たに竣工した新・記念館(平成十九年十二月

二十日竣工)の復元された同館貴賓室(旧神宮皇學館貴賓室)で公開展示は続けられている。

2 事業と活動

開館後の当館活動の状況については、それぞれの事業毎に年代を追い、重要事項を中心にその概要を述べてゆきたい。

(1) 総務事業

平成五年 教養講座を開催し、教育普及事業の具体的な事業が開始された。

平成六年 御萱蓋展示用ケースを製作した。また、九月二十六日には高円宮・

同妃両殿下が御来館になった。

平成七年 和紙人形ジオラマ「遷御儀」のケース製作した。また、本年より特

別陳列や夏休み親子教室等を開催する等、博物館活動の活発化がはかられた。同時に教養講座に附属する見学会や展示解説等の案内も実施されるに至った。

平成八年 昨年寄贈された神輿(兵庫 高取稻荷神社)の展示台等が製作された。

平成九年 所蔵資料写真データのデジタル化にも着手した。また、セコムより

導入したハロン式消火設備の定期点検が開始された。

平成十三年 第一収蔵庫にブンガノガス燻蒸を実施し、一部資料(護符・神札

類、伊勢講関係資料)に被覆燻蒸を実施した。

平成十五年 博物館学芸員を教育職員(従前は研究職員)と位置づけ、学芸員と

しての館務をつかさどるとともに、博物館学芸員課程履修学生の教育と課程の運営にあたらせることとなり、そのための人事(学芸員岡田芳幸を助教授に任用)と、これに伴う皇學館大学神道博物館規

定の一部変更が実施された。また、本年よりI P M（有害生物管理）思想に基づく虫害モニターを今後毎年実施することとなった。

平成十六年

展示案内用に音声ガイドのシステムコンテンツ作製と使用機器の整備を行ったが、結果としては十分機能させることやコンテンツ情報等の入れ替えが難しく、当初の目的程利用されていない。現在は主として学内でのオープンキャンパスや諸行事、団体での来館者に対しては、学芸員や学芸員課程実習生の展示案内等により対応している。

平成十九年

三月二十四日には千束屋資料（伊勢歌舞伎関係資料・同家乗資料類）の受け渡し式が挙行された。同資料は昭和五十八年から伊勢文化会議所の資料調査開始に始まり、平成元年の当館発足により山田幸輝氏（千束屋当主）から同資料の一括寄託を受け、資料調査等が続行された。この間資料の整理、目録作成のための基礎的作業としての調書の作成、伊勢歌舞伎資料を中心とした保存箱等の保存環境整備等に多くの年月を要するに至った。このたび、一応の整理が終了したのを機に、山田氏の御厚志により本資料を本学に寄贈したいとの申し出を受け、山田幸輝氏、同恵美子令夫人並びに御令嬢水野絵里子氏・石富幸美氏等を迎え、大学側からは上杉千郷理事長、伴五十嗣郎学長、宗林正人常務理事、島原泰雄館長、さらに本資料の保存及び調査に初期段階より協力、尽力された岡田照子氏（当時、当館研究嘱託、岐阜女子大学名誉教授）等により受け渡し式が挙行された。

寄贈資料の内訳は以下の通りである。

伊勢歌舞伎資料

台帳（台本）類

一二三三件

一七八〇点

衣裳類	七八七件	三七四五点
浮世絵	八六件	一一六点
小道具類他	四三三件	一五六九点
合 計	二五四一件	七二一〇点

千束屋家乗類

家乗類	二四二〇件	一〇七五四点
衣裳類（含家乗類）	四〇八件	四五七二点
衣裳型紙	二二件	二八二点
絵葉書	四九五件	一四三六六件
合 計	三三四五件	一七〇四四四点
総 計	五八八六件	二四二五四四点

十一月二十七日（火）には住吉大社本殿御帳台 一座（帷等一部復元）（大阪 住吉大社寄贈）の受け渡し式が行われた。この御帳台は、住吉大社本殿神座用（元撰社大海神社）の御帳台として殿内に安置されていた江戸時代後期のもので眞弓常忠宮司の御厚志により寄贈された。経年劣化により、黒漆塗部分や金具、帷部は劣化の痕跡が見られ、特に帷は復元を要する状態であった。このため、文化財修理を黒漆塗り部と金具部に施し、帷部については保存可能な箇所のみ別用の形態で修理を行い、帳台を覆う帷は全て現存するものからの復元修理とした。また、畳部や八重畳、茵についても、修理可能なものについては、原則保存修理を実施した。但し、茵は中央部分のみを残し、周辺縁部分については、復元修理としている。併せて展示可能な台の製作と茵を覆うアクリル製覆いを新たに設けた。保存修理後、宮司代理として住吉大社権宮司神武磐彦氏が式典に臨席された。

平成二十二年 十一月十三（金）・十四日（土）の二日間に亘り、当館及び皇學館大学等を会場として、平成二十一年度全国大学博物館学講座協議会西日本部会が開催された。

平成二十二年 平成二十四年度に開催予定の皇學館大学創立百三十周年・再興五十周年記念事業として催される予定の「神社名宝展」において、国指定文化財の公開展示を予定しており、このため展示・収蔵環境の整備並びに改善等に資するため、独立行政法人東京文化財研究所の指導により、展示ケース及び収蔵庫内の空気中におけるアンモニア・有機酸量の測定をバツプインジケーター・変色試験紙等を用い測定した。

三月六日（土）には小原家文庫資料寄贈式が行われた。小原家所蔵の即位礼・大嘗祭関係資料類は平成十八年十月六日の所功氏（当時 京都産業大学教授）の仲介により寄託をうけ、同年十二月十六日資料を、翌年二月には関係図書・雑誌類を当館収蔵庫に収蔵した。資料点数は三八九件一四四一点に及ぶものである。その際の申し合わせにより、資料目録作成のための基礎的作業として調書の作成、保存環境の整備として保存箱の製作を実施するなど資料整理を進め、『小原家資料目録』を刊行する運びとなった。刊行と併せて資料の所蔵者である小原利康氏をはじめ御令嬢夫妻（保志泰氏、由紀子氏）から本資料を本学に寄贈したいとの御厚志に基づき遺贈の式典が行われた。小原家からは御当主をはじめ、保志夫妻、大学側からは佐古一洸理事長、伴学長、岡野友彦館長、さらには本資料類の保存・整理に当初より協力・尽力された加茂正典氏（当時 当館専門委員・神道研究所教授）が出席した。

九月十日（金） 平成二十二年度日本博物館協会近畿支部支部長

館として総会を当館で実施した。

平成二十三年 皇學館大学創立百三十周年・再興五十周年記念特別展「神社名宝展 ― 参り・祈り・奉る ―」借用資料写真撮影のため写真の無い借用資料及び神社境内写真の写真業者による撮影（カラーポジ）及びフォトCDへの焼付けが実施された。（撮影及び焼付した資料他9件 ポジ20カット デジタル撮影55カット）併せて皇學館創立百三十周年・再興五十周年記念 特別展 神社名宝展―参り・祈り・奉る―の開催のための全ての準備に伴う業務を遂行し、また、展示環境の改善並びに設備の改修等が実施された。昨年から継続の日本博物館協会近畿支部幹事館として役員会及び研修会が本学及び伊勢市・鳥羽市で以下のように開催された。

第1回役員会 七月十二日（火） 第2回役員会 平成二十四年三月九日（金）

研修会 九月九日（金）

（2）資料の蒐集と保存

当館資料については、開館当初迄に寄贈や寄託を受けた資料と開館後に寄贈・寄託を受けた資料があり、開館以前の資料等については開館当初における当館の特色及び事業、館内や展示の概要の項ですでに述べられており、この箇所では開館以降の寄贈・寄託資料の主なものについて年次毎に概述する。

平成五年 牧野伸顕関係資料 大久保利通の次男で、大正・昭和初期の外交・政治の推進者として著名な牧野伸顕伯爵関係の資料が、故松平永芳氏の仲介により牧野伸和氏より寄贈（一部寄託）された。内容は大きく 1、御即位・大嘗祭関係資料 2、宮中賜宴招待状類 3、御下賜盃類 4、色紙・短冊類 5、明治天皇・昭憲皇太后御真影

	6、大正天皇太子時代御写真 7、昭和天皇・同皇太后御真影 8、昭和天皇太子時代御写真 9、親王・内親王殿下御写真類 10、神宮式年遷宮祭直会 御膳組 食器類 (昭和四年十月六日) 11、書籍・画帖類 以上寄贈品類 12、英国皇太子殿下訪日写真 アルバム帖 13、聖徳記念絵画館『画題考証図』 以上寄託品類 合計四七件 一一〇余点に及ぶ。他に今宮戎神社十日戎祭礼風景和 紙人形ジオラマ (今宮戎神社寄贈)、神符・護符類 一括 (青森 今節子氏寄贈) 他		
平成六年	御菅蓋 一具 (大阪 深江稻荷神社・同社笠縫保存会寄贈) 他		
平成七年	神宮式年遷宮遷御儀御列和紙人形ジオラマ 一揃 (阿部夫美子氏他 寄贈)、神輿 一基 (兵庫 高取稻荷神社寄贈)、第六十一回神宮式 年遷宮装束 (緑袍 赤単 袴) 一式 (森壽雄氏寄贈)、第六十一回 神宮式年遷宮装束 (束帯) 一式 (中井正晴氏寄贈)、大杉華水 伊 勢型紙錐小紋「大堰舟遊」一額 (大杉華水氏寄贈)、全国神社小絵 馬類 五七二点 (鹿島則良氏寄贈)、鈴木重胤筆 自詠長歌 一幅他 (鈴木吉則氏寄贈) 他		
平成八年	祭礼用黒漆箱提灯 一具 (谷省吾氏寄贈) 足代弘訓・御巫清直等墨 跡並本居宣長・同大平他和歌短冊類 六点 (鈴木吉則氏寄贈)		
平成九年	諸社神札・守札類 一括 (伴五十嗣郎 安江和宣氏寄贈) 高原美 忠筆一行書・久保田収筆一行書並和歌短冊 八点 (国分千嘉子氏寄 贈)		
平成十年	菊被綿 一揃 (今津隆弘氏寄贈)、大礼服上下 一揃 帯用剣 一 揃 黒ハット 昭和大礼記念章・満州国皇帝訪日記念章・帝都復興 記念章 (藤田きよ子氏寄贈)		
平成十二年	栗津御供の御幣並資料 一括 (滋賀 日吉大社寄贈)		
		平成十三年	寄託資料 寄託者 岡山 牛窓神社
		1	伊勢講御厨子 (神舍) 台座付 並西大寺浜地区同内容品類 一括
		2	御厨子台座並記録留置帳 牛窓紺裏地区
		①文化二年 (乙巳) 七月吉日御伊勢講帳	一綴
		②明和八年 (辛卯) 七月吉日御伊勢講帳	一綴
		③大正拾四年伊勢講連中帳	一綴
		④昭和二十八年 伊勢参宮連名帳	一綴
		⑤二十七年午正月起し 参り事控	一綴
		3	伊勢講机
		4	大神宮升
		5	御神酒徳利並箱
		6	伊勢講用茶碗、椀、折敷
		7	御神号
		8	伊勢講講連幟
			二旒
		平成十四年	神宮皇學館大学予科学生川出敬一氏学徒出陣の折りの寄せ書き日章 旗 一旒 (川出充子氏寄贈)
		平成十五年	松本朝彦和歌懷紙 一幅 鈴木重胤和歌詠草 一幅他 (鈴木吉則氏 寄贈)、山田孝男神宮皇學館館長筆色紙「至誠報国」一枚 (井上公 正氏寄贈)、熱田・北野他護符・御守類 一括 (三木善則氏寄贈)
		平成十六年	神宮他箱型大麻並直会用曲物・斎串 一括 (八木意知男氏寄贈)、 矢野松三郎氏収集 守札・神符類他 一括 (矢野礼子氏寄贈)、神
		平成十七年	宮正殿模型 (内宮) (広島市立広島工業高等学校寄贈) 扇祭大松明 一具 扇打松 一具 (和歌山 熊野那智大社寄贈)、 苞苴 (つと) (大嶋奥津島神社寄贈)、足代弘訓筆和歌 一幅 和歌 短冊 十二枚 (永井謙吾氏寄贈)、延宝四年伊勢曆断簡 一枚 (千

枝大志氏寄贈）、弥生式土器 一口 御木曳山田町法被雛形（元治元年）一冊 伊勢内宮領桶部村田地売券（宝暦・延宝 二通）一卷 二見三津木造師子頭（顎下部欠失）一頭（恵良宏氏寄贈）他

平成十八年 伊勢山田地方文書 一括（二四〇点）（永井謙吾氏寄贈）

平成十九年 本居宣長消息 一幅（永井謙吾氏寄贈）

平成二十年 大正大嘗祭関係資料 七件五二点（大江崇之氏寄贈）乾光隆氏を通じて武者小路千家大江崇之（宗匠名…木津宗隆）氏より寄贈、皇學館史関係資料（教科書 色紙等）四〇点 皇室・神社関係新聞記事 二一九紙（小澤吉生氏寄贈）、谷川士清書簡 一幅 荒木田久老長歌（春海久老二与フル書）一幅 荒木田久老書牘 一幅 本居宣長書簡 一幅（鹿島則良氏寄贈）

平成二十一年 近代名家書跡 一卷 桑原江南書 一幅（恵良宏氏寄贈）、伊勢名所順路図（明治三五年）一枚 伊勢参宮みやげ（明治三二年）一枚（島原泰雄氏寄贈）

平成二十二年 神宮皇學館館長山田孝雄筆色紙「至誠如神」（青山殷大氏寄贈）

平成二十三年 恵良 宏氏より和鏡並湖州鏡等の鑑鏡類を一括十八件、飯田良樹氏よりは伊勢参宮に関する錦絵類を、鈴木吉則氏、千枝大志氏、八木意知男氏などからは種々の資料や文書類の寄贈をうけている。

その他の資料 この他、開館以前の寄贈や寄贈時期の不明な資料のうちにも貴重なものも若干存在する。神宮神楽職を勤めた榊原家の関係資料（川西とさ氏寄贈）、乃木神社名譽宮司故高山昇氏蒐集にかかる昭和天皇即位・大嘗祭関係資料や書跡・文書・絵画資料（高山亨氏寄贈）、旅館宇仁館の当主故中井正斎氏が蒐集した陶芸家今村仙風の作品類（中井正次氏寄贈）、本学総長故篠田康雄氏が蒐集した近世・近代の書跡・短冊・和歌懷紙・絵画資料類（故篠田康雄氏寄贈）、沖繩の民間信仰資料ビンシー（新垣義夫・故吉田玄蕃氏寄贈）、備中荒神神楽切紙

（西井愷氏寄贈）、山田三方関係文書（小林政治氏寄贈）、神宮御装束裂帖（片岡宗氏寄贈）、神符・護符・守札類（故上村芳男氏寄贈）、打製石斧他考古資料（酒井勉氏寄贈）、縄文土器片及び石器類（故藤田勝重氏寄贈）などである。

（3）展 示

常設の展示については、開館式典の挙行の◇展示において詳しく触れてあり、本項では、その他の展示について述べることにする。

◇「特別展」の開催

博物館における展覧会の最も規模の大きなものが特別展と名付けられた展覧会である。

当館ではこのような大規模な展覧会は二回開催されている。第一回目は平成二十一年から二十二年にわたり開催された特別展『伊勢の歌舞伎と千束屋 ― 神都に伝わる伊勢人のこゝろ ―』、第二回目は平成二十四年に開催された皇學館大学創立百三十周年・再興五十周年記念特別展『神社名宝展 ― 参り・祈り・奉る ―』である。展示室も第一・第二展示室の二室が利用されている。

尚、平成二十四年に開催された皇學館大学創立百三十周年・再興五十周年記念特別展『神社名宝展 ― 参り・祈り・奉る ―』については、本書（『皇學館大学百三十年史』総説篇）本編の記述内容が平成二十三年迄とされており、その詳細は本稿においては記述しない。（展示品目録並図録「こあいさつ」文のみ）特別展『伊勢の歌舞伎と千束屋』

会期：平成二十年十二月十五日～同二十一年五月三十日

前期：平成二十年二月十五日～同二十一年三月十日

後期：平成二十一年三月十四日～同年五月三十日

※展示入替日 三月十一～十三日

本展覧は昭和六十三年千束屋当主山田幸輝氏より本学に伊勢千束屋資料（伊勢

歌舞伎関係資料並に千束屋家乗関係資料）が寄託され、調査・分類・保存等の手順を経て、全ての資料が平成十九年三月二十四日寄贈されたことを記念して開催された特別展覧会である。

展示構成は

I部 伊勢歌舞伎の様相 ― 千束屋の歌舞伎資料を中心に ―

序 口上 東西東西

1 祝祭の芸能としての歌舞伎

(1) 三番叟 (2) 翁 (3) 大黒舞

2 千束屋伝来の衣裳類

(1) 傾城 (2) 老女 (3) 娘方 ①赤姫 ②武家娘 (4) 世話物

(5) 公家 (6) 伊達(鞘当) (7) 殿様と狭客 (8) 四天

(9) 伊達下がり (10) 陣羽織 (11) 肩衣 (12) 帯

3 義太夫狂言

(1) 仮名手本忠臣蔵 (2) 義経千本桜 (3) 菅原伝授手習鑑

(4) 伽羅先代萩

4 江戸歌舞伎

(1) 寿曾我対面

5 上方歌舞伎

(1) 盛綱陣屋 (2) 敵討天下茶屋聚

6 歌舞伎舞踊

7 小道具と台本

II部 千束屋の人々と家業

1 千束屋の人々

2 千束屋の社会事業

3 生業としての家業

(1) 妓楼 (2) 貸衣裳業 (3) 葉種業

4 千束屋伝来の諸道具類 附 役者絵・芝居絵

展示資料のほとんどは、当館に寄贈された千束屋資料であるが、芝居番付「古市常芝居 大賀捌、千代萩梅幸薫伽羅、義経千本桜」(安政二年五月)、「古市常大芝居 天竺徳兵衛韓漸重扇化粧写」(文政十二年八月)、「古市常芝居 増補演真砂、桂川漣理柵」(安政三年四月)、「古市常大芝居 祇園祭禮信仰記、化粧六歌仙」の四点は川添裕コレクション資料であり、当展覧会のため本学元教授川添裕氏より借用している。

展覧会の「ごあいさつ」には館長 島原泰雄により次のような文が寄せられている。

皇學館大学に、千束屋当主山田幸輝氏より、伊勢歌舞伎関係資料類が寄託されたのは昭和六十三年でした。平成元年に佐川急便グループ会長佐川清氏のご好意により佐川記念神道博物館が発足、同四年に開館し、お預かりした諸資料群も収蔵され、資料の保存に万全の処置を講じて参りました。その後、遅々たる歩みながら調査・整理・分類等をすすめてきましたが、膨大な資料の全貌を調査整理し、目録を完成させるには二十年の歳月が流れました。そして、平成十九年三月二十四日、山田幸輝氏を初め、ご一族の方々のご厚志により、伊勢歌舞伎関係資料並に千束屋伝来の家乗類等の諸資料全てをご寄贈いただくことができました。そこで、これを記念し、此度特別展覧会を開催することにいたしました。

今回の展覧では第一部伊勢歌舞伎の様相、第二部千束屋の人々と家業の二部構成とし、三都に次ぐ田舎芝居の第一、役者の登竜門と定評をはくした伊勢歌舞伎の諸相と、此等資料類を現在に至るまで守り伝えた千束屋の方々の郷土伊勢に対する精神の息吹の一端を御紹介できればと考えております。

千束屋資料につきましては、今日に至るまで多くの方々のご厚志ご尽力を

頂きました。ここに改めて厚くお礼申し上げます。

平成二十年十二月十五日

館長 島原 泰雄

展覧会に関する附帯事業としては、以下の日程で行事が行われた。

①開会式 平成二十年十二月十八日（木）

②記念講演会

平成二十年十二月二十日 「伊勢の歌舞伎ばなし」

講師 南山大学 教授 安田文吉

平成二十一年三月十四日 「千束屋歌舞伎資料をめぐって」

講師 岐阜女子大学 名誉教授 岡田照子

③歌舞伎DVD上映会

平成二十年十二月二十日、同二十一年二月十四・二十一・二十八日、三月七・十四・二十一・二十八日

平成二十四年度開催の皇學館大学創立百三十周年・再興五十周年記念特別展

「神社名宝展 ―参り・祈り・奉る―」

会期：平成二十四年四月二十九日（日）～同年五月二十六日（土）

前期：平成二十四年四月二十九日（日）～同年五月十二日（土）

後期：平成二十四年五月十四日（月）～同年五月二十六日（土）

※展示入替：五月十三日（日）一部陳列品の入れ替えを実施

※休館日：五月六日（日）・十三日（日）・二十日（日）

創立百三十周年・再興五十周年記念事業の一環として、第一部「神々と神社宝物の精華」では、神宮および太宰府天満宮から多度大社に至る十のお社からご出品いただいた荘厳華麗な宝物類を、第二部「神社境内図と参詣曼荼羅」で

は、人々が霊場に集い賑わう信仰の姿を、重要文化財二十点を含む六十六件百五点の名宝類を一堂に集め、「神社名宝展 ―参り・祈り・奉る―」と題し、開催した。

本展覧会における「ごあいさつ」並びに、佐古一洸理事長及び岡野友彦神道博物館長の展覧図録収載「ごあいさつ」は次の通りである。

【ごあいさつ】

皇學館は、明治十五年、神宮祭主久邇宮朝彦親王の令達により、設置されましたが、敗戦による連合国軍総司令部の指示（神道指令）により、昭和二十一年、廃絶の悲運に遭いました。然しながら、昭和三十七年に私立大学として再興し、本年、創立百三十周年・再興五十周年の佳節を迎えることができました。

皇學館大学 佐川記念神道博物館では、この佳節に当たり、本学建学の精神を再認識しつつ、日本文化の核として各地の神社に伝えられてきた名宝を一堂に公開する特別展「神社名宝展」を開催させていただきます。第一部「神々と神社宝物の精華」では、神宮および太宰府天満宮から多度大社に至る十のお社からご出陳いただいた荘厳華麗な宝物類を、第二部「神社境内図と参詣曼荼羅」では、人々が霊場に集い賑わう信仰の姿をご鑑賞ください。

本展覧会を通じ、神宮・神社のすばらしさを再確認していただくとともに、私どもの祖先が、神々に参り・祈り・奉った崇敬の心の琴線に触れていただくことができれば幸いです。最後になりましたが、貴重なご宝物をご出陳くださる等、格段のご高配を賜りました神宮ならびに神社関係者に対し、心より御礼申し上げます。

平成二十四年四月

皇學館大学 佐川記念神道博物館
館長 岡野 友彦

【目録ごあいさつ（理事長）】

皇學館は、明治十五年、神宮祭主久邇宮朝彦親王の令達により、設置されましたが、敗戦による連合国軍総司令部の指示（神道指令）により、昭和二十一年廃絶の悲運に遭いました。然しながら、昭和三十七年に私立大学として再興し、本年、創立百三十周年・再興五十周年の佳節を迎えることが出来ました。

本学の建学の精神は、明治三十三年神宮皇學館総裁神宮祭主賀陽宮邦憲王より賜った令旨に明瞭に示されています。それは、日本人が古来持ち伝えてきた特有の信仰の姿である神道を基本とし、わが国の歴史に根ざした学問を明らかにし、これを実践して中正健全な倫理道德を確立し、文明の豊かな進展に寄与するものです。この教育の根幹を踏まえ、今回周年記念事業の一環として、佐川記念神道博物館において、「神社名宝展 ― 参り・祈り・奉る ―」と題する特別展を企画いたしました。重要文化財二十点を含む六十六件百五点の名宝類を一堂に集め、展示することは、大学博物館としては画期的なことであると自負しております。わが国の歴史や伝統、文化の源泉、信仰など日本文化の精華の一端をご鑑賞いただければ幸いです。

最後になりましたが、本展覧会の趣旨にご賛同いただき、格別のお計らいにより貴重なご宝物をご出品くださいました神社様、また、ご後援をいただきました文化庁、三重県、伊勢市教育委員会、神宮司廳、神社本庁、三重県神社庁の関係各位に謹んでお礼申し上げますとともに、本展覧会開催にあたり、ご支援、ご協力を賜りました皆様方に深く感謝の意を表します。

平成二十四年 四月

学校法人 皇學館

理事長 佐 古 一 洌

【目録ごあいさつ（館長）】

皇學館大学 佐川記念神道博物館は、平成元年十月、「皇學館建学の精神に則り、日本文化の核として、それを生み、かつ支えてきた神道を基盤として歴史・伝統・文化を正しく理解し、その発展と継承に資することを目的」（基本構想第一条）として設置されました。

本年、皇學館大学創立百三十周年・再興五十周年の慶賀を迎えるに当たり、当館では、その設置の趣旨をふまえ、本学建学の精神を再認識しつつ、日本文化の核として各地の神社に伝えられてきた名宝を一堂に公開する特別展「神社名宝展」を開催させていただきます。第一部「神々と神社宝物の精華」では、神宮および太宰府天満宮から多度大社に至る十のお社からご出品いただいた荘厳華麗な宝物類を、第二部「神社境内図と参詣曼荼羅」では、人々が霊場に集い賑わう信仰の姿をご鑑賞ください。

本展覧会を通じ、神宮・神社のすばらしさを再確認していただくとともに、私どもの祖先が、神々に参り・祈り・奉った崇敬の心の琴線に触れていただくことができれば幸いです。最後になりましたが、貴重なご宝物をご出品くださる等、格段のご高配を賜りました神宮ならびに神社関係者に対し、心より御礼申し上げます。

平成二十四年 四月

皇學館大学 佐川記念神道博物館

館長 岡 野 友 彦

本展には次の資料が公開展示された。

凡例

一、展示品目録に記載の「前期」は平成二十四年四月二十九日（日）から五月十二日（土）、「後期」は五月十四日（月）から同二十六日（土）、前期・後期の表示のない場合は全期間展示を示す。

一、指定の表記は、国指定重要文化財Ⅱ◎、県指定の文化財Ⅱ○、市指定の文化財Ⅱ□とした。

【展示品目録】

No.	指定文 化財	名称	員数	所蔵先	展示 期間
第一部 神々と神社宝物の精華					
◇太宰府天満宮					
1		湯山三吟	一卷	太宰府天満宮	
2		夢想之連歌	一帖	太宰府天満宮	後期
3		今川了俊一座千句連歌	一帖	太宰府天満宮	前期
4	◎	梅月蒔絵文台	一基	太宰府天満宮	
◇住吉大社					
5		住吉大社神代記（複製本）	一卷	住吉大社	前期
6		津守氏系図（大領家本）	一帖	住吉大社	後期
7		住吉神像	一幅	住吉大社	後期
8		住吉大神宮神号 細川勝元花押	一幅	住吉大社	前期
9	◎	住吉松葉大記	二十二冊	住吉大社	
◇松尾大社					
10	◎	男神坐像 老年相	一軀	松尾大社	
11 女神坐像					
二軀 松尾大社					
①（櫛谷社・宗像社旧安置）					
前期					
②（月読社旧安置）					
後期					
◇石清水八幡宮					
12	◎	石清水八幡宮御縁起（石清水八幡宮文書の内）	二卷	石清水八幡宮	上巻前期 下巻後期
13◎石清水祭神幸図（石清水八幡宮文書の内）					
二卷 石清水八幡宮					
上巻前期					
下巻後期					
14◎類聚国史 卷第一・卷第五					
二卷 石清水八幡宮					
下巻後期					
15◎八幡大菩薩神号（石清水八幡宮文書の内）					
一幅 石清水八幡宮					
16 一ノ鳥居古額					
一面 石清水八幡宮					
17 金銅三鈷杵					
一口 石清水八幡宮					
18 金銅釣燈籠					
一基 石清水八幡宮					
◇八坂神社					
19		祇園社本殿絵図	一鋪	八坂神社	
20		波千鳥蒔絵文台	一基	八坂神社	
21		朱漆塗八足卓〔案〕	一基（三基の内）	八坂神社	
22		繫馬蒔絵大盃	一口	八坂神社	
23	◎	太政官符（八坂神社文書の内）	二通	八坂神社	
①延久二年（一〇七〇）					
前期					
②元久二年（一二〇五）					
後期					

24 祇園社御造宮神宝諸道具請取帳 一冊 八坂神社

◇大神神社

25 三輪山縁起 一卷 大神神社

◇春日大社

26 ◎竹虎双雀方鏡 一面 春日大社

27 ◎舞楽面 新鳥蘇 一面 春日大社

28 □鹿島立神影図 一幅 春日大社

29 若宮祭絵巻 卷第一 一卷 春日大社 前期

30 春日権現験記絵 卷第二（岡田為恭模写） 一卷 春日大社

◇熱田神宮

31 ◎日本書紀（紙背和歌懷紙） 十五卷の内卷第三（神武天皇紀） 一卷 熱田神宮

附 金蓮寺住持浄阿寄進日本書紀添状

32 ◎後花園天皇宸筆御消息 一幅 熱田神宮

33 ◎足利義教自筆御内書 一幅 熱田神宮

34 蓬萊鏡 一面 熱田神宮

35 菱文散亀鶴柄鏡 一面 熱田神宮

◇真清田神社

36 ◎舞楽面 童舞（天童）（十二面の内） 一面 真清田神社 前期

37 ◎獅子頭 一面 真清田神社 後期

◇多度大社

38 ◎多度鏡（多度大社経塚出土 三十面の内） 四面 多度大社

①瑞花双鳳文八稜鏡

②瑞花双鴛鴦文五花鏡

③萩双鳥文鏡

④薄蝶鳥文鏡

◇神宮

39 ◎金銅透彫金具 一枚 神宮（神宮徴古館）

40 ◎皇太神宮儀式帳残卷 一帖 神宮（神宮文庫）

41 内宮儀式帳 一冊 神宮（神宮文庫）

42 ◎等由気太神宮儀式帳 一卷 神宮（神宮文庫）

43 豊受（止由気）太神宮儀式帳 一冊 神宮（神宮文庫）

44 遷宮例文 一冊 神宮（神宮文庫）前期

45 建久元年内宮遷宮記 一冊 神宮（神宮文庫）後期

46 豊受大神宮寛政御遷宮絵巻 一卷 神宮（神宮文庫）前期

47 豊受大神宮遷御之図 一卷 神宮（神宮文庫）後期

48 承安元年御装束絵巻物（内宮） 一卷 神宮（神宮文庫）前期

49 永久四年遷宮外宮装束之図（外宮） 一卷 神宮（神宮文庫）後期

第二部 神社境内図と参詣曼荼羅

第一 神社景観と祭典図

50 熱田神宮年中行事絵巻（三卷の内中巻） 一卷 熱田神宮

51 若宮御祭礼絵巻物 上巻 一卷 春日大社

52 住吉名勝図会 五冊 住吉大社（住吉御文庫）

53 ◎石清水八幡宮境内全図（石清水八幡宮文書の内） 一幅 石清水八幡宮 前期

54 天満宮境内図 一幅 太宰府天満宮 後期

55 熱田神宮古絵図（享禄古図屏風写） 一幅 熱田神宮 前期

56 ◎祇園社絵図 一幅 八坂神社 前期

57 祇園社絵図（元徳古図の写） 一幅 八坂神社 後期

58 松尾神社絵図 一幅 松尾大社

59 三輪山絵図 一幅 大神神社

第二 参詣曼荼羅の世界

- 60 富士曼荼羅図（原本 重要文化財 複製本） 一幅 富士山本宮浅間大社
61 〇富士浅間曼荼羅図 一幅 富士山本宮浅間大社
62 多賀参詣曼荼羅図 一幅 多賀大社 前期
63 多賀社参詣曼荼羅 一幅 多賀大社 後期
64 参宮道中絵巻 一卷 神宮（神宮徴古館）
参考資料 伊勢両宮（参宮）曼荼羅図（写真） 一幅 神宮（神宮徴古館）
65 〇熱田神宮古絵図 残闕（田島家文書の内）十一枚 熱田神宮
66 〇真清田神社参詣曼荼羅 一幅 真清田神社

〈付帯事業〉

①開会式 平成二十四年四月二十八日（土）

②記念講演会

平成二十四年五月十九日（土）「神々と神社宝物の精華」

講師 本学教授・学芸員 岡田芳幸

③ミュージアムトーク

平成二十四年五月一日（火）～五日（土）

各日午前十時～、午後二時～

〈印刷物〉

展覧会ポスター B2 カラー

展覧会チラシ A4 両面カラー

特別展図録「神社名宝展 ―参り・祈り・奉る―」 A4カラー

特別展簡易図録「神社名宝展 ―参り・祈り・奉る―」 A4カラー

◇「特別陳列」（企画展）の開催

当館では開館後暫くの間は所蔵品類の調査を主とした事業として位置づけてきたが、博物館の存在が学内外に次第に周知されるに伴い、学内に所蔵されている様々な資料を博物館の施設を利用して公開できないかとの要望が聞こえ、これに応えると共に博物館活動の一つである展示事業の推進をはかる目的で、平成七年より第二展示室において各年一回程度の企画展を実施することとなった。企画展示は平成十六年まで実施され、その後は博物館学芸員課程学生が企画する「卒業展示」へと移行し現在に至っている。「卒業展示」については項を改め述べることにする。

皇學館大学の名品のテーマで開催された展覧は以下の通りである。

平成七年 第一回 春期特別陳列「本居宣長とその門流」

会期：六月一日～九月十五日

本居宣長自筆書簡三点を含む宣長門下の国学者の書跡や書き入れ本等十九点で構成。所蔵先は附属図書館。

平成八年 第二回 秋期特別陳列「中世古文書の世界」 監修：恵良宏

会期：平成八年十月一日～平成九年一月三十一日

十六件の中世文書（鎌倉～桃山）で構成。所蔵先は附属図書館、国史学科研究室、史料編纂所、神道研究所。

平成九年 第三回 秋期特別陳列「澤潟久孝文庫の紹介」―萬葉研究の軌跡―

会期：前期 平成九年十月一日～十一月二十九日

後期 平成九年十二月一日～同十年一月三十一日

附属図書館「澤潟文庫」が所蔵する万葉集写本・版本・注釈書類四五件を1『萬葉集注釈』と学風、2 萬葉集の写本類、3 萬葉集版本類、4 萬葉集注釈書類に分ち、これら資料より澤潟萬葉学の機微に触れることを目的とした展覧。所蔵先は附属図書館。

平成十年 第四回 秋期特別陳列「神道関係の書籍」

会期：平成十年十月二十三日～同十一年一月三日

中世伊勢神道書や垂加神道書、国学関係書等と先賢の書状・書跡類十四件で構成。所蔵先は附属図書館、神道研究所。

平成十二年 第五回・第六回 春季特別陳列「神道の典籍と古文書」

会期：六月三日～九月二十九日

本学で開催された第四十八回神道史学会大会の開催にあわせ企画された展示で、学内所蔵の神道関係の典籍や古文書類十五件と当館所蔵 神宮御装束裂帖、学外からは世木永幸氏（故人）所蔵の『荒木田氏古系図』・屋形紋錦裂（断片）が特別出陳された。所蔵先は附属図書館、同神道研究所、同史料編纂所、世木永幸氏。

秋季特別陳列「澤潟久孝文庫展 ― 萬葉集研究の軌跡 ―」

会期：平成十二年十月二十八日～同十三年一月三十一日

新たに附属図書館に澤潟久孝先生御遺族より追加寄贈された（平成九～十年）一七四点の書跡典籍類のなかより、特に貴重と思われる十三件を含む二十九件の資料で構成され、Ⅰ澤潟久孝博士の萬葉集研究として、博士自筆のノート・カード類や『万葉集注釈』自筆稿本、博士書き入れ本等 Ⅱ 澤潟文庫の貴重資料として、写本・版本・注釈本類で構成。所蔵先は附属図書館「澤潟文庫」

平成十四年 第七回・第八回 特別陳列「御師と伊勢講」―伊勢参宮の諸相―

会期：三月二十二日～六月八日

本学と伊勢市の共催「御師シンポジウム」にあわせて企画された。学内所蔵の御師・参宮・伊勢講関係資料、千束屋資料（伊勢歌舞伎関係資料）と岡山県牛窓町鎮座牛窓神社寄託の伊勢講関係資料二二件をⅠ御師と御神楽、Ⅱ 伊勢の歌舞伎と千束屋、Ⅲ伊勢講とその資料（岡山県牛窓の伊勢講資料を中心に）で構成。所蔵先は当館と牛窓神社寄託品

特別陳列「皇學館大学の名品 ― 開学百二十周年記念特別陳列 ―」

会期：前期 十月七日～十一月三十日

後期 十二月五日～平成十五年二月一日

本学創立百二十周年記念の企画展で、本学が所蔵する古文書・典籍類、国学者等先賢の書跡類のなかから貴重な作品を選び公開した。前期展では、『福富家文書』『福嶋御塩焼大夫文書』等の貴重古文書の名品や『東寺縁起』等一六件を、後期展では神道関係の典籍類、万葉集や文学関係の典籍・歌集・詠草・書跡等の名品二十七件を公開した。所蔵先は附属図書館、国史学科研究室、史料編纂所、神道研究所。併せて附帯事業として文学部教授 恵良 宏氏「皇學館大学所蔵の古文書 ― その魅力と見所 ―」と題した特別陳列記念講演会が開催された。

平成十五年 第九回 特別陳列「千束屋の歌舞伎衣裳とその意匠Ⅰ ― 女方衣裳に織り込まれた美意識 ―」

裳に織り込まれた美意識 ―

会期：十一月二十九日～平成十六年三月二十七日

当館に寄託中の千束屋資料のうち、特に歌舞伎の女方（物）衣裳の名品や特徴ある三三品目を選び、1時代物の衣裳 2伊達傾城の衣裳 3世話物の衣裳 4所作事の衣裳 5千束屋衣裳の特徴 6帯の文様 7関連資料の展示構成のもと千束屋伊勢歌舞伎資料の一端を紹介した。所蔵先は当館。

平成十六年 第十回 特別陳列「千束屋の歌舞伎衣裳とその意匠Ⅱ ― 立役衣裳に織り込まれた伊達と粹 ―」

衣裳に織り込まれた伊達と粹 ―

会期：十一月二七日～平成十七年三月二十六日

昨年に引き続き男物衣裳の名品や特徴ある三三品目を選び、1様々な立役衣裳 2羽織・肩衣の文様 3四天の意匠 4衣裳に表現される役柄 5伊達下りの文様 6関連資料の展示構成で展覧した。所蔵先は当館。

◇コーナー展示の開催

教育普及事業の一環として、当館では夏休み親子教室（平成七年より）を開催してきた。その一環として平成九年より「夏休み物知りコーナー」とする展示を第二展示室の一部を使用しておこなった。テーマは親子教室の内容を踏まえ、これと関連するものを中心とした当館所蔵品で構成した。

平成九年 「昆虫・動物とお札」 平成十年 「鳥と神とのかかわり」 平成十一年「神様と文様」

◇その他の展示

平成十七年十二月京都・吉田神社の旧社家で吉田神道の伝統を受け継ぐ鈴鹿家から、江戸時代の宮廷祭祀に関わる資料五五四点が本学に寄託され、当館収蔵庫で保管されることとなった。これをうけて平成十八年六月十・十一日の両日第五二回神道史学会大会、七月一日・二日延喜式研究会が本学で開催されることに時期を合わせ、企画展『学内資料名品展示』を第二展示室並びに一階会議室を会場として開催された。

企画展『学内資料名品展示』 会期：前期 平成十八年六月十日・十一日

後期 同年 七月一日・二日

前期展示では第二展示室において鈴鹿家寄託の鈴鹿家宮廷祭祀資料二五件と本学新収蔵資料の「掃守某畠地売券（伊勢光明寺旧蔵）、本居宣長自詠自筆和歌懷紙「朝棕社」の詠二首を、一階会議室では、本学所蔵の吉川神道関係資料の津軽藩齊藤家文書二三件を公開演示した。後期展示では、鈴鹿家宮廷祭祀資料七件、津軽藩齊藤家文書二三件、新収蔵資料二件が出陳された。また、史料編纂所の企画展に対しては、会場提供がなされている。平成十八年「香川敬三関係資料展」（十二月一日～同二十五日）、平成十九年「福富家文書展」（十二月三日～平成二十年二月二日）開催のため、第二展示室が使用された。

◇卒業展示の開催

当館は大学附属の博物館施設であり、学部に開設されている博物館学芸員課程の実習教育の施設としての使命を開館当初より意識し、開館二年後の平成六年より課程学生の基礎実習を受け入れ実習教育を開始した。しかし、社会状況の変化や博物館課程に対する学生教育に関する要望は年を追う毎に厳しくなる様相を呈した。このため、当館では博物館課程担当教員との協議及び課程委員会の了承のもと、課程学生の本館での基礎実習と共に四年次実習生に対し基礎実習の総括として「卒業展示」という展覧会の企画・運営等全ての業務を実施しながら展覧会を開催する実習を平成十七年より開始した。展覧のテーマは郷土伊勢の文化や産業等に関するものが主で、なかには御大札・大嘗祭、参宮やお木曳き、注連縄なども見られた。展示の資料は原則としては学内所蔵品が主であったが、学外の諸機関や個人の所蔵品も展観され、ポスター・チラシ類の作成配布、展示品目録の発行や展示品の解説案内、附帯事業としての映画会の開催やハンドオン展示、体験学習等、一般の博物館施設で実施される展覧会と遜色ない内容が実施され、内外から高い評価を得ている。当館では、この展覧を特別展示に変わる企画展（第二展示室を使用）として、学生教育と博物館活動の両立をはかる事業として位置づけている。

以下に開催された展覧会名と会期を年次順に記す。

平成十七年 第一回

展覧会名称 統一テーマ「伊勢の歴史と文化」

第一班「お木曳き ― 現代のお木曳きを中心に ―」

第二班「お伊勢参りの楽しみ ― 餅菓子食べ歩き ―」

第三班「伊勢の歴史と文化を知ろう ― 経塚篇 ―」

会期：十月二十八日～三十日

平成十八年 第二回

展覧会名称 第一班「山田傘 ―後世に残したい伊勢の伝統文化―」

第二班「伊勢参宮と伝統工芸 ―木のぬくもり―」

第三班「饗宴の愉しみ ―花見・伊勢・町人―」

会期：十一月三日～二十五日

平成十九年 第三回

展覧会名称 第一班「萬金丹 ―不思議な効能のある薬―」

第二班「御師 ―伊勢へ参ろう―」

第三班「お木曳きと地域 ―衣裳から伊勢を知る―」

会期：十一月二日～二十四日

平成二十年 第四回

展覧会名称 第一班「生姜糖 ―お伊勢さんのお土産 今・昔―」

第二班「伊勢和紙 ―神の紙―」

第三班「御大札 ―大正から昭和へ―」

会期：十一月一日～二十九日

平成二十一年 第五回

展覧会名称 第一班「船参宮 ―伊勢湾を渡った参宮者―」

第二班「伊勢のかんこ踊り」

第三班「伊勢の神様の塩」

会期：十一月一日～二十八日

平成二十二年 第六回 この年より実習生の減少に伴い二班構成とした。

展覧会名称 第一班「伊勢音頭 ―その発祥から現代まで―」

第二班「御食国の海女おとめ」

会期：十月二十九日～十一月二十七日

平成二十三年 第七回

展覧会名称 第一班「大解剖！ 伊勢の注連縄 ―我が家のバウンダリー―」

第二班「おいない！伊勢へ ―おもてなしのカタチ―」

会期：十月二十八日～十一月二十六日

平成二十四年 第八回

展覧会名称 第一班「南勢キネマ ―フィルムがつなぐ世界―」

第二班「みくにまなび ―伊勢の学問とその門流―」

会期：平成二十四年十一月二日～十一月二十四日

（4）教育普及

◇教養講座の開催

博物館が生涯教育施設と位置づけられていることに鑑み、平成六年より一般市民に対する教養教育の一環として「教養講座」を開催し現在に至っている。年毎に時機に合わせたテーマを設定し学内・学外から講師を招き、それぞれのテーマに関連した講演を御願ひしている。現在では地元地域の市民に拘わらず県内外からも聴講者が参集する盛況を呈している。現在迄開催された講座は以下の通りである。

平成五年 神道のまつり

第一回 五月二十二日（土）「まつりの心」

講師 本学学長・当館館長 谷省吾氏

第二回 六月二十六日（土）「まつりの場」講師 本学教授 伴五十嗣郎氏

第三回 十月二十三日（土）「お供え」講師 本学教授 安江和宣氏

第四回 十一月二十七日（土）「はらえ」講師 本学講師 本澤雅史氏

平成六年　くらしと神道

第一回　五月二十八日（土）「自然と神まつり」

講師　本学助教授 白山 芳太郎氏

ビデオ上映「日本は祭りの国」神社本庁

第二回　六月二十五日（土）「道と神まつり」講師　本学助教授 岡田 登氏

ビデオ上映「万葉集」アポロンビデオライブラリー

第三回　十月二十二日（土）「家と神まつり　―お札の話―」

講師　当館学芸員 岡田 芳幸氏

ビデオ上映「雅びに集う　―全国祇園祭山笠巡行―」京都・八坂神社

第四回　十一月二十六日（土）「村と神まつり」

講師　本学教授 櫻井 治男氏

ビデオ上映「祭りの国日本Ⅰ　出雲　神有月」日本の祭り製作委員会

平成七年　伊勢歌舞伎の世界Ⅰ

第一回　五月二十七日（土）「千束屋資料と伊勢の歌舞伎」

講師　当館学芸員 岡田 芳幸氏

ビデオ上映「賀茂葵祭」日本の祭り製作委員会

第二回　六月二十四日（土）「千束屋と家の物語」

講師　本学教授 櫻井 治男氏

ビデオ上映「高千穂夜神楽」日本の祭り製作委員会

第三回　十月二十八日（土）「地域社会と文化財保護

―千束屋資料保存への道程―」講師　岐阜女子大学教授 岡田 照子氏

ビデオ上映「江戸と上方」日本文化史

第四回　十一月二十五日（土）「伊勢歌舞伎よもやま話」

講師　聖徳学園岐阜教育大学教授 安田 徳子氏

ビデオ上映「町人文化の時代」日本文化史

関連事業：十月十三日（金）第一回見学会（第三十一回歌舞伎吉例顔見世

鑑賞（名古屋御園座）参加者四十名

一、壺坂靈驗記　一幕三場　澤市内より谷底まで

二、身替坐禅　新古演劇十種の内

三、恋飛脚大和往来　一幕　封印切　玩辞楼十二曲の内

平成八年　伊勢歌舞伎の世界Ⅱ

第一回　五月二十五日（土）「志摩の祭りと芝居小屋」

講師　海の博物館学芸員 野村 史隆氏

ビデオ上映「出羽三山神社　松例祭」日本の祭り製作委員会

第二回　六月二十二日（土）「伊勢の歌舞伎と名古屋」

講師　大東文化大学講師 池山 晃氏

ビデオ上映「三輪のお田植まつり」日本の祭り製作委員会

第三回　十月二十六日（土）「三都芝居と伊勢歌舞伎」

講師　南山大学教授 安田 文吉氏

ビデオ上映「宮島の四季厳島神社・式年大祭」厳島神社

第四回　十一月三十日（土）「志摩の人形芝居と信仰」

講師　志摩民俗資料館学芸員 西城 利夫氏

ビデオ上映「佐太　御座替祭」日本の祭り製作委員会

平成九年　三重の考古風土を探る

第一回　五月三十一日（土）「三重県の遺跡と考古学」

講師　本学助教授 岡田 登氏

第二回　六月二十八日（土）※講師急逝に伴い中止

「考古資料が語る伊勢の歩み」

講師　伊勢市教育委員会教育文化課係長 岩中 淳之氏

第三回 十月二十五日（土）「斎宮跡調査の成果と課題」

講師 斎宮歴史博物館調査研究課主幹兼課長 駒田 利治氏
第四回 十一月二十九日（土）「神宮と考古学」

講師 神宮欄宜 和田 年弥氏

※終了後学芸員による展示解説あり

平成十年 日本の神々Ⅰ

第一回 五月二十三日（土）「疫病の神」

講師 当館館長・本学教授 伴 五十嗣郎氏

第二回 六月二十七日（土）「道の神」

講師 本学助教授 岡田 登氏

第三回 十月二十四日（土）「福の神」

講師 本学助教授 本澤 雅史氏

第四回 十一月二十八日（土）「酒の神」

講師 当館学芸員 岡田 芳幸氏

平成十一年 日本の神々Ⅱ

第一回 五月二十九日（土）「学の神」

講師 本学教授 白山 芳太郎氏

第二回 六月二十六日（土）「氏の神」

講師 本学助教授 井後 政晏氏

第三回 十月三十日（土）「家の神」

講師 本学助教授 本澤 雅史氏

第四回 十一月二十七日（土）「食の神」

講師 当館学芸員 岡田 芳幸氏

平成十二年 日本の神々Ⅲ

第一回 五月二十九日（土）「歌の神」

講師 本学教授 深津 睦夫氏

第二回 六月二十四日（土）「芸の神」

講師 本学教授 奥野 純一氏

第三回 十月二十八日（土）「武の神」

講師 当館館長・本学教授 伴 五十嗣郎氏

第四回 十一月二十五日（土）「商の神」

講師 当館学芸員 岡田 芳幸氏

平成十三年 日本の神々Ⅳ

第一回 五月二十六日（土）「海の神」

講師 本学助教授 本澤 雅史氏

第二回 六月三十日（土）「火の神」

講師 本学助手 伊藤 雅紀氏

第三回 十月二十七日（土）「山の神」 講師 本学教授 伴 五十嗣郎氏

第四回 十一月二十四日（土）「水の神」 講師 当館学芸員 岡田 芳幸氏

平成十四年 日本の神々Ⅴ

第一回 五月二十五日（土）「言葉と神」

講師 当館館長・本学教授 深津 睦夫氏

第二回 六月二十九日（土）「星座と神」

講師 本学助教授 河野 訓氏

第三回 十月二十六日（土）「鍛冶と神」

講師 本学教授 岡田 登氏

第四回 十一月三十日（土）「動物と神」

講師 当館学芸員 岡田 芳幸氏

平成十五年 日本の神々Ⅵ

第一回 五月三十一日（土）「落語と神」

講師 本学教授 川添 裕氏

第二回 六月二十八日（土）「サメとアワビと神」

講師 五十鈴塾塾長 矢野 憲一氏

第三回 十月二十五日（土）「ヨーロッパから見た日本の神」

講師 本学助教授 山田 やす子氏

第四回 十一月二十九日（土）「神々に捧げられた文様」

講師 当館学芸員・助教授 岡田 芳幸氏

平成十六年 日本の祭りⅠ ―祭りの意義と歴史・芸能―

第一回 五月二十九日（土）「葵祭」

講師 賀茂御祖神社欄宜 嵯峨井 建氏

第二回 六月二十六日（土）「祇園祭」

講師 八坂神社権欄宜・文教課長 五島 健児氏

第三回 十月三十日（土）「熱田神宮の特殊神事

―踏歌・歩射・醉笑人など―

講師 熱田神宮文化研究員 野村 辰美氏

第四回 十一月二十七日(土)「春日若宮おん祭」

講師 奈良市教育委員会文化財課主任 岩坂 七雄氏

平成十七年 日本の祭りⅡ ―祭りの意義と歴史・芸能―

第一回 五月二十八日(土)「三輪山の祭り」

講師 大神神社権禰宜 山田 浩之氏

第二回 六月二十五日(土)「松尾大社の御田祭」

講師 松尾大社権禰宜 尾崎 俊廣氏

第三回 十月二十九日(土)「真清田神社の年中祭事

―地域の精神的核をめざして―

講師 真清田神社宮司 飯田 清春氏

第四回 十一月二十六日(土)「住吉大社の御田植神事」

講師 住吉大社権禰宜 小出 英詞氏

平成十八年 日本の祭りⅢ ―祭りの意義と歴史・芸能―

第一回 五月二十七日(土)「例祭(ふるまつり)と白河天皇」

講師 石上神宮権禰宜 白井 伊佐牟氏

第二回 六月二十四日(土)「熊野那智大社の扇まつり」

講師 熊野那智大社宮司 朝日 芳英氏

第三回 十月二十一日(土)「石清水祭と特殊神饌」

講師 石清水八幡宮宮司 田中 恆清氏

第四回 十一月二十五日(土)「阿蘇神社の稲作儀礼」

講師 阿蘇神社権禰宜 池浦 秀隆氏

平成十九年 日本の祭りⅣ ―祭りの意義と歴史・芸能―

第一回 五月二十六日(土)「多度の上馬神事」

講師 多度大社宮司 塚原 徳生氏

第二回 六月二十三日(土)「お伊勢お多賀の子でござる」

講師 多賀大社宮司 中野 幸彦氏

第三回 十月二十七日(土)「生田神社の歴史と祭り」

講師 生田神社宮司・神戸女子大学名誉教授・文学博士 加藤 隆久氏

第四回 十一月二十四日(土)「今宮戎神社の十日戎」

講師 今宮戎神社宮司 津江 明宏氏

平成二十年 日本の祭りⅤ ―祭りの意義と歴史・芸能―

第一回 五月二十四日(土)「三嶋大社の歴史と祭り」

講師 三嶋大社権禰宜 近藤 亘氏

第二回 六月二十一日(土)「国境の町 長崎と諏訪祭礼」

講師 鎮西大社諏訪神社権禰宜 松本 亘史氏

第三回 十月二十五日(土)「伊勢国一の宮 椿大神社の歴史と祭り」

講師 伊勢国一の宮椿大神社宮司 山本 行恭氏

第四回 十一月二十九日(土)「諏訪大社と御柱祭」

講師 諏訪大社宮司 平林 成元氏

平成二十一年 日本の祭りⅥ ―祭りの意義と歴史・芸能―

第一回 五月二十三日(土)「金刀比羅宮の祭り」

講師 金刀比羅宮権禰宜 安藤 義之氏

第二回 六月二十七日(土)「廿日会祭 稚児舞楽について」

講師 神部神社 浅間神社 大歳御祖神社(通称 静岡浅間神社)

権禰宜 渡邊 聖之氏

第三回 十月二十四日(土)「日吉大社と山王祭」

講師 日吉大社権禰宜 井口 健氏

第四回 十一月二十八日(土)「鹿島の祭頭祭と地域社会」

講師 鹿島神宮宮司 鹿島 則良氏

平成二十二年 日本の祭りⅦ ―祭りの意義と歴史・芸能―

第一回 五月二十二日（土）「浅間大社の歴史と富士山信仰」

講師 富士山本宮浅間大社禰宜 佐野 雅弘氏

第二回 六月二十六日（土）「太宰府天満宮の祭り ―その成立と変遷―」

講師 太宰府天満宮禰宜 味酒 安則氏

第三回 十月三十日（土） ※台風のため中止

「白山の自然と信仰」 講師 白山比咩神社宮司 村山 和臣氏

第四回 十一月二十七日（土）「宗像大社の歴史と信仰」

講師 宗像大社禰宜 葦津 幹之氏

平成二十三年 日本の祭りⅧ ―祭りの意義と歴史・芸能―

第一回 五月二十一日（土）「出雲の神在祭 ―奉仕する者の立場から―」

講師 万九千社立虫神社禰宜・島根県神社庁主事 錦田 剛志氏

第二回 六月二十五日（土）「白山の自然と信仰」

講師 白山比咩神社宮司 村山 和臣氏

第三回 十月二十二日（土）「秩父神社の由緒」

講師 秩父神社権禰宜 蘭田 建氏

第四回 十一月二十六日（土）「厳島神社の年中行事」

講師 厳島神社権禰宜 岡田 敬士氏

平成二十四年 「伊勢の神宮を語るⅠ」 ―日本文化の源流を考える―

第一回 六月三十日（土）「伊勢の神宮と日本人」

講師 本学特別教授・名誉教授 伴 五十嗣郎氏

第二回 十月二十七日（土）「伊勢神宮の創祀と式年遷宮の展開」

講師 本学名誉教授・館史編纂室長 渡辺 寛氏

第三回 十一月二十四日（土）「神宮式年遷宮の歴史」

講師 本学教授 井後 政晏氏

尚、教養講座関連見学会として先述のごとく平成六年十月十三日第三十一回歌舞伎吉例顔見世鑑賞（名古屋御園座）を実施している。

◇夏休み親子教室の開催

平成七年より、子どもが日本文化の美しさややすばらしさを学ぶ、また、文化に親しむ楽しさを実際に体験しながら、博物館と地域の子どもの交流をはかりたいとの観点から、幼稚園・保育園児から中学生を対象とした体験学習教室を毎年開催している。親子で参加してもらうことが原則で、物作りや自然観察、文化鑑賞等を通じ、日本文化や日本の生活用具等の再認識、日本的感性や美意識の涵養をはかることのできる体験学習を目指している。平成九年からは神宮徴古館農業館との共催事業と位置づけ、交互に担当しながら現在に至っている。毎年多くの参加希望者があり定員四〇組で七月・八月各一回（午前・午後開催）の申し込みは受付開始後、直ちに定員を迎えるものもあり好評である。現在迄開催された教室は以下の通りである。

平成七年 折り紙教室及びビデオ鑑賞会 各回五十組

講師 本学教育学科他学生 数名

第一回 七月二十七日（木）、第二回 八月十日（木）

ビデオ鑑賞会 東映漫画映画「わんぱく王子の大蛇退治」

平成八年 楽しい昆虫・植物採集 各回八十組

講師 当館館長・皇學館大学教授 宗林 正人氏

第一回 七月二十九日（月）、第二回 八月九日（金）

ビデオ上映 「かぶとむし」（ビデオ科学館^⑩）

引率補助本学学生

終了後、親子向けの展示解説有り

平成九年 「サメの不思議」「昆虫の話」 各回八十名

講師 神宮徴古館農業館館長 矢野 憲一氏

皇學館大學教授 宗林 正人氏

第一回 七月二十三日(水)、第二回 八月九日(土)

ビデオ上映 「因幡の白ウサギ」

関連展示 「夏休み物知りコーナー 昆虫・動物とお札」

備考 本年より地域の博物館との連携をはかるため神宮徴古館農業

館と共催

平成十年 鳥を描こう 各回八十名

講師 神宮徴古館農業館館長 矢野 憲一氏

津田学園児童画講師・画家 足立 徹氏

第一回 七月二十二日(水)、第二回 八月一日(土)

アニメ映画上映 「神武天皇」

関連展示 「夏休み物知りコーナー 鳥と神とのかかわり」

平成十一年 手びねり陶芸教室 各回八十名

技術講師 本学教育学科教授 清水 正教氏

講話講師(回別) 神宮徴古館館長 矢野 憲一氏

神宮宮掌 音羽 悟氏

神宮徴古館学芸員 深田 一郎氏

第一回 七月三十一日(土)、第二回 八月四日(水) 両日二班制

関連展示 「夏休み物知りコーナー 神様と文様」

平成十二年 手びねり陶芸教室Ⅱ 一班四十名

講師 本学文学部教育学科教授 清水 正教氏

第一回 八月一日(火)、第二回 八月五日(土) 両日二班制

平成十三年 伊勢和紙って何だろう?―紙すき体験教室― 一班四十名

講師 大豊和紙工業株式会社 中北 喜得氏

第一回 七月二十三日(月)、第二回 七月二十四日(火) 両日二班制

平成十四年 親子でコンニャク作り―伝統的ヘルシー食材に挑戦!―

一班四十名

講師 本学文学部助教授 長尾 陽子氏

第一回 八月二日(金)、第二回 八月三日(土) 両日二班制

平成十五年 「しお」 ―二見の海から塩づくり― 一班二十名

講師 神宮徴古館農業館学芸員 深田 一郎氏

第一回 七月二十六日(土)、第二回 七月二十七日(日) 両日二班制

平成十六年 「昔の本づくりに挑戦」―自分だけの日記帳を作ろう!―

一班四十名

講師 皇學館大学教授 高倉 一紀氏

津市教育委員会文化課学芸員 松尾 篤氏

第一回 七月二十五日(日)、第二回 八月四日(水) 両日二班制

平成十七年 「ペットボトルで野菜を育てよう!」 一班二十名

講師 神宮技師 山口 剛氏

神宮徴古館農業館学芸員 本多 久子氏

第一回 七月二十七日(水)、第二回 八月六日(土) 両日二班制

平成十八年 「草木染め教室 ―オリジナルの手ぬぐいを染めてみませんか?―」

一班四十名

講師 染色家 西山 重勝氏

第一回 七月二十四日(月)、第二回 八月六日(日) 両日二班制

平成十九年 「知ろう、作ろう、伊勢春慶!」 一班二十名

講師 伊勢市工芸指導所所長 西井 幸平氏

伊勢春慶の会 森 勇三氏

第一回 七月二十五日（水）、第二回 八月一日（水） 両日二班制
「ペーパークラフト 立体グリーンディングカードを作ろう！」

一班四十名

講師 本学文学部准教授 加藤 茂外次氏

第一回 七月二十四日（木）、第二回 八月三日（日） 両日二班制

平成二十一年「海藻にふれてみよう！ー海藻のお話と楽しいおしば作りー」

一班四十名

講師 海の博物館学芸員 平賀 大蔵氏

第一回 七月二十五日（土）、第二回 八月三日（月） 両日二班制

平成二十二年「手すき和紙で折り染めのうちわをつくろう！」 一班二十名

講師 伊勢和紙館（大豊和紙工業株式会社）スタッフ

第一回 七月二十一日（水）、第二回 七月二十五日（日）

両日二班制

平成二十三年「スズムシの庭園を作ろう!!」 一回二十組

講師 神宮徴古館農業館職員（宮掌 鑑谷 嘉樹氏・

宮掌 芝本 行亮氏・学芸員 深田 一郎氏・

学芸員 長谷川 明輝氏）

第一回 七月二十七日（水）、第二回 七月三十一日（日）

平成二十四年「まがたまを作ろう!!」 一回二十組

講師 三重県埋蔵文化財センター（田中久生氏・奥田勝久氏）

第一回 七月二十五日（水）、第二回 七月二十八日（土）

◇皇學館大学博物館学芸員課程履修学生の基礎実習指導

当館は皇學館大学附属の博物館施設であり、本学学生への教育や施設の提供は開館以来、博物館の大きな目的の一つに位置づけられてきた。このため、平成六年より学生の実習を受入れた。内容は基礎実習（三年次・四年次学生）として、資料の取り扱い方、劣化因子の除去等さまざまな博物館学芸員の基礎的な知識・技術を習得する講義・演習（週一回）を受ける一方、当館独自の展示案内実習や館務実習（各学年十六時間相当）の学芸業務補助や教育普及事業の補助的業務を実習、総括として四年次生には「卒業展示」を課すなど、大学附属博物館の特性を生かした実習が行われている。

◇総合学習や学校・神社界等の見学者等に対する展示案内

当館には学校をはじめ神社界からの見学者等が開館以来多数来館しており、大学のゲスト、団体の見学の折りには展示品の解説案内を求められることが多い。また、学校行事をはじめ本学授業の一環（有職故実）や階位講習会開催のおりにも見学が予定されており、これら学生・受講生の案内も極力行っている。なかでも、市内の中学生等の見学や皇學館高等学校の総合学習の見学（平成七年より）は一年を三班に分け当館、神宮徴古館農業館・神宮美術館、斎宮歴史博物館等を見学して巡るもので現在に至るまで実施されており、学校行事（授業）の一環として博物館見学が行われていることは喜ばしいことである。

(5) 印刷物の刊行

博物館活動の成果として、印刷物も多数刊行されており、以下に刊行書目を刊行年次順にあげておきたい。

平成元年

『平成元年 皇學館大學神道博物館館報』第一号

『千束屋資料調査報』第一輯

平成二年

『平成二年 皇學館大學神道博物館館報』第二号

『千束屋資料調査報』第二輯

平成三年

『平成三年 皇學館大學神道博物館館報』第三号

平成四年

『平成四年 皇學館大學神道博物館館報』第四号

常設展示案内図録『皇學館大學神道博物館』

『千束屋資料調査報』第三輯

三折パンフレット（和文・英文）

絵はがき

平成五年

『平成五年度 皇學館大學神道博物館館報』第五号

平成七年

『平成六年 皇學館大學神道博物館館報』第六号

平成八年

『平成七年 皇學館大學神道博物館館報』第七号

特別陳列展示品目録『秋季特別陳列 皇學館大學の名品Ⅱ 中世古文書の世界』

『千束屋資料調査報』第四輯
平成九年

『平成八年 皇學館大學神道博物館館報』第八号

特別陳列展示品目録『秋季特別陳列 皇學館大學の名品Ⅲ 澤瀉久孝文庫の紹介 — 萬葉研究の軌跡 —』

平成十年度

特別陳列展示品目録『秋季特別陳列 皇學館大學の名品Ⅳ 神道関係の書籍』

常設展示案内図録『皇學館大學神道博物館』改訂版

平成十一年

『平成九年度 皇學館大學神道博物館館報』第九号

平成十二年

特別陳列展示品目録『特別陳列 皇學館大學の名品Ⅴ 神道の典籍と古文書』

特別陳列展示品目録『特別陳列 皇學館大學の名品Ⅵ 澤瀉久孝文庫展 — 萬葉集研究の軌跡 —』

常設展示案内図録『皇學館大學神道博物館』増刷

絵はがき増刷

『平成十年度 皇學館大學神道博物館館報』第十号

平成十三年

『平成十一年度 皇學館大學神道博物館館報』第十一号

平成十四年

特別陳列展示品解説目録『特別陳列 御師と伊勢講 — 伊勢参宮の様相 —』

特別陳列展示品解説目録『創立一二〇周年記念特別陳列 皇學館大學所蔵の名品 — 古文書・典籍 —』

『平成十二年度 皇學館大學神道博物館館報』(第十二号)

皇學館大學 佐川記念神道博物館小史（岡田）

平成十五年

特別陳列目録『千束屋の歌舞伎衣裳とその意匠Ⅰ ―女方衣裳に織り込まれた美意識―』

『平成十三年度 皇學館大学神道博物館館報』第十三号

平成十六年

特別陳列目録『千束屋の歌舞伎衣裳とその意匠Ⅱ ―立役衣裳に織り込まれた伊達と粹―』

『平成十四年度 皇學館大学神道博物館館報』第十四号

平成十七年

『平成十五年度 皇學館大学佐川記念神道博物館館報』第十五号

平成十八年

『平成十六年度 皇學館大学 佐川記念神道博物館館報』第十六号

平成十九年

『平成十七年度 皇學館大学 佐川記念神道博物館館報』第十七号

三つ折パンフレット増刷

絵はがき増刷

平成二十年

『平成十八年度 皇學館大学 佐川記念神道博物館館報』第十八号

特別展『伊勢歌舞伎と千束屋 ―神都に伝わる伊勢人のこゝろ―』図録

平成二十一年

『平成十九年度 皇學館大学 佐川記念神道博物館館報』第十九号

『平成二十年度 皇學館大学 佐川記念神道博物館館報』第二十号

平成二十二年

『平成二十一年度 皇學館大学 佐川記念神道博物館館報』第二十一号

『皇學館大学佐川記念神道博物館』増補改訂版

三折パンフレット（和文・英文） 各改訂

『小原文庫資料目録』

平成二十三年度

『平成二十二年度 皇學館大学神道博物館館報』第二十二号

平成二十四年度

『平成二十三年度 皇學館大学神道博物館館報』第二十三号

特別展図録『神社名宝展―参り・祈り・奉る―』

特別展簡易図録『神社名宝展―参り・祈り・奉る―』

絵葉書増刷

【編集担当者附記】 本稿は、『皇學館大学百三十年史』各説篇に掲載のため準備された原稿であるが、同書の刊行を見送ることになったためここに掲載させていただいた。

（おかだ よしゆき・皇學館大学研究開発推進センター教授・学芸員）